

令和2年度

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

## 研究のまとめ

### 研究主題

「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」  
～主体的・対話的で深い学びを通して～



千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

# 目 次

1	はじめに	千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会長	若林 雅夫	・・・	1
2	千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会活動報告				
	(1) 事務局			・・・	2
	(2) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会神奈川大会千葉県提案内容				
		技術分野	浦安支部	・・・	3
		家庭分野	君津支部	・・・	7
3	各部活動報告				
	(1) 研究部			・・・	11
	(2) 情報部			・・・	12
	(3) 中学校部			・・・	14
		千葉県中学校技術・家庭科作品展			
	(4) 小学校部			・・・	16
4	各支部活動報告				
	(1) 千葉支部			・・・	18
	(2) 市原支部			・・・	19
	(3) 習志野支部			・・・	20
	(4) 八千代支部			・・・	22
	(5) 船橋支部			・・・	23
	(6) 市川支部			・・・	25
	(7) 浦安支部			・・・	27
	(8) 東葛飾支部			・・・	29
	(9) 印旛支部			・・・	31
	(10) 香取支部			・・・	32
	(11) 東総支部			・・・	33
	(12) 山武支部			・・・	34
	(13) 長生支部			・・・	36
	(14) 夷隅支部			・・・	37
	(15) 安房支部			・・・	39
	(16) 君津支部			・・・	41
5	令和2年度役員・地区理事一覧			・・・	43
6	編集後記			・・・	45

# 1 はじめに

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会  
会 長 若 林 雅 夫

新型コロナウイルス感染は幾度かの波となり、その影響は多方面に及び、私たちの心をも挫けさせる毎日が続いています。各支部、学校でのご苦勞、ご心勞を心よりお見舞い申し上げます。

さて6月26日に令和2年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会八千代大会並びに定期総会を八千代市立八千代中学校で開催をする予定でありましたが、上記の感染防止対策の観点から紙面提案とさせていただきました。また、7月7日の役員研修会の折に昨年度の活動・決算の報告や今年度の計画・予算など、資料を配布させていただきました。これまでの準備に向けて大変多くの先生方のご協力、ご支援をいただいた中での当日の授業展開、研究協議並びに総会の中止につきましては大変残念なことでありましたが、ご理解をいただき、感謝申し上げます。八千代支部の授業提案、研修実践については別紙資料にて配付してあります。各学校での実践に是非ご活用ください。

また、本教科の成果を発表する場の一つとして「千葉県中学生創造ものづくり教育フェア」があります。今年度は11月14日に千葉県総合教育センターで開催する予定でしたが、これも感染防止対策の観点から「全国フェア」、「関東フェア」同様に中止といたしました。

そのような中、10月1日に千葉県総合教育センターを会場にして、各支部からの作品の出品の協力を得て千葉県技術・家庭科作品展審査会を行うことができました。約200点の作品の中から、千葉県教育長賞、千葉県技術・家庭科振興協会会長賞などを選出することができました。作品を通して、各学校の昨年度の実践の成果を見ることができました。

今年度は、中学校で令和3年4月1日から全面実施となる新学習指導要領の移行期間の最終年度となりました。新学習指導要領では、次代を担う生徒が、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となるとともに、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造し続けられるよう、資質・能力を育成していくことが求められています。全部または、一部について新学習指導要領による教育課程を編成・実施している学校もあります。本教科でも今回の改訂の趣旨を生かし、題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、単に何かを作るという活動だけではなく、「技術の見方・考え方」「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた実践的・体験的な学習活動へと転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組まなければなりません。移行期最終年度に入り、新学習指導要領の実現に向けた具体的な方策を詰めている段階ではないかと思えます。さらに評価については国立教育政策研究所から示された内容を確認して、令和3年度の完全実施に向けて、確実な準備を進めていく必要があります。

また、令和6年度に開催予定の関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会千葉大会に向けて、理事研修会での協議から指導を開始しました。今後はオンラインの研修会等を含めて仲間の絆を深め、資質向上に向けて力を結集させていくことが大切だと考えます。

最後になりましたが、私たちの研究に心温まるご指導をいただきました関係各位並びに、本研究のまとめにご執筆いただいた方々に心より感謝申し上げますとともに、今後の研究推進のために変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます、はじめの言葉といたします。

## 2 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会活動報告

### (1) 事務局

#### 1. 研究主題

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

#### 2. 活動重点

- (1) 研究活動の推進と成果の累積に努める。
- (2) 小学校家庭科及び中学校技術・家庭科の関連を図る。
- (3) 研究・研修活動の推進を図る。
- (4) 組織を強化し、機能を円滑にする。

#### 3. 活動報告

令和2年

- ~~5月12日(火) 第1回役員研修会(県総合教育センター 金工室)~~
- ~~5月30日(土) 全日中技術・家庭科研究会理事会(女子栄養大学 駒場キャンパス)~~
- ~~6月3日(水) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会理事会(神奈川県横浜市)~~
- ~~6月26日(金) 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会  
八千代大会並びに総会(八千代市立八千代中学校)~~
- 7月7日(火) 第2回役員研修会(千葉市立白井中学校 体育館)
- ~~8月3日(月) 第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア準備及び研修会~~
- 10月1日(木) 第3回役員研修会(県総合教育センター 本館映写室)  
千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会作品展  
(県教育総合教育センター A701)
- ~~10月22日(木) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会神奈川大会理事会~~
- ~~10月22日(木) 同 全体会, 講演会(横浜市開港記念会館)~~
- ~~10月23日(金) 同 公開授業・分科会(神奈川県内8分科会)~~
- ~~11月13日(金) 第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア前日準備~~
- ~~11月14日(土) 第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア  
(県総合教育センター)~~
- ~~12月6日(日) 全国中学生創造ものづくり教育フェア関東甲信越大会茨城大会~~

令和3年

- ~~1月23日(土) 全国中学生創造ものづくり教育フェア各県事務局長会議~~
- ~~1月23日(土) 第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア(女子栄養大学他)~~
- ~~1月24日(日) 同フェア結果発表, 表彰, 閉会式(東京芸術センター)~~
- 2月12日(金) 第4回役員研修会(千葉市立白井中学校 体育館)
- 2月19日(金) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会東京大会理事会  
(東武ホテルレバント東京)
- ~~2月13日(土) 千葉県中学生木工工作作品展準備・審査・展示~~
- ~~14日(日) ※千葉県木材振興協会主催(千葉市科学館きぼーる)~~
- 3月21日(日) 会計監査, 役員選考会(ポートプラザちば)  
※令和2年9月～令和3年3月 各地区作品展開催

\*取り消し線は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった活動です。

# 生活の中で課題を見だし、自ら進んで工夫し、 創造する生徒の育成

～浦安市の環境を踏まえた生物育成の技術を通して～

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会  
浦安市立高洲中学校 教諭 川崎 康晴  
浦安市立堀江中学校 教諭 伊藤 英樹

## 1 はじめに

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会では、『生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成～主体的・対話的で深い学びを通して～』を研究主題として実践研究を進めている。

これをうけて、浦安市の技術教育部会では、『生活の中で課題を見だし、自ら進んで工夫し、創造する生徒の育成～浦安市の環境を踏まえた生物育成の技術を通して～』を研究主題として実践研究を進めてきた。中でも、「新学習指導要領技術分野の目標(2)生活や社会の中から技術に関わる課題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。」を中心に研究を行ってきた。

## 2 浦安市の栽培教育と実態

平成27年度、農地のない浦安市では、学校教育の場に植物工場を導入することにより、理科や環境教育、食育の充実をはじめ、委員会活動やクラブ活動などで栽培経験を通じた多様な学習が展開できると考え、LED照明や空調、養液供給などにより植物が育つ環境を人工的にコントロールし、季節や天候に関わらず施設内で植物を育てることができる設備である「植物工場」を、浦安市立入船中学校に導入した。

全国の自治体で唯一農地がないこともあり、全国でも注目された。

浦安市は、集合住宅で生活する家庭が多く、「生物育成」で学んだ内容を実生活で実践しにくい課題がある。技術科では、浦安市の環境や各家庭環境を踏まえ、栽培できる品種や育成方法は何か、

研究を進めた。研究を進める中で、R-PDCAのR(リサーチ:調査)を身につければ、自分たちの住んでいる浦安市で栽培ができる上、日本中どこでもその地にあった生物が栽培できる力が身につくと考えた。

## 3 実態調査

研究を進めるにあたって、平成29年度に各学校で実践した生物育成の内容を調査した。

浦安市は昭和40年から埋め立て工事が始まり現在の大きさになったが、浦安村(明治22年)のときと比べ、現在の面積は4倍以上になっている。公立の中学校も埋め立てに伴い増え続け、現在9校ある。また、元町地域(明治22年浦安村からの土地)、中町地域(昭和46年までに埋め立てられた土地)、新町地域(昭和55年までに埋め立てられた土地)と3つの地域に分けられ、それ以外にもアーバンリゾートゾーン、工業ゾーンと5つの地域に分けることができる。(写真1)地域ごとに実践内容をまとめてみた。(表1)



写真1 浦安市の5つの地区

表1 平成29年度浦安市公立中学校技術科生物育成の実践一覧

地域	場所	栽培方法	栽培したもの
元町地域 2校	室内 ベランダ	水耕栽培 (ポット)	リーフレタス
	ベランダ	土壌栽培 (ポット)	ミニトマト
中町地域 4校	ベランダ	水耕栽培 (ポット)	リーフレタス
	ベランダ	土壌栽培 (ポット)	ミニトマト
	室内	土壌栽培 (ポット)	ミニトマト
	外	土壌栽培 (ペットボトル)	リーフレタス
新町地域 3校	ベランダ	土壌栽培 (鉢)	ミニトマト
	室内	水耕栽培 (ポット)	リーフレタス
	ベランダ	土壌栽培 (ポット)	ミニトマト

実態調査から、地域に関係なく、どの学校もポット(ペットボトル・鉢)を使用して、一人一つ栽培していることがわかった。

また、小学校のときに栽培したものについても、生徒からアンケートをとった。多くの小学校では、アサガオ、チューリップ、稲を栽培している。他にも、ミニトマト、オクラ、ゴーヤなどがあげられた。「栽培では何を意識して栽培したか?」という質問には、「水遣りを意識した」、「毎日水をあげること」や、「日当たりの場所を考えた」、「日をたくさんあてる」など水やりと日当たりに関する回答が多かったが、「特に意識はしていない」と答えた生徒も多かった。このことから、中学校の技術科で学習するまで、栽培の知識はほとんどないことがわかった。

#### 4 研究経過

各学校の現状や小学校での学習を踏まえ、中学校では何を題材にして授業を展開すればよいのか、様々な角度から研究を行った。

浦安市の技術・家庭科の授業は、1・2年生は2期制(前後期制)、3年生は通年隔週で実施している。学校によって生物育成を扱う学年が違い、畑を使って土壌栽培ができる環境の学校は1つもない。仮に敷地内に畑を作るにしても、日当たりや、生徒数の関係から場所の確保が難しい。海が近い学校では、ベランダで育てたものが塩害の被害を受けたり、強風で枝が折れたりすることもある。限られた場所と時間で栽培するため、種からではなく、苗から育てることも考えた。

また、きのこの栽培も実験した。栽培実習を行うには、比較的春から夏にかけて実践できれば、栽培できるものが多いが、学校によっては後期に生物育成を行う学校もある。きのこは、冬場の10月～2月でも日照時間に関係なく栽培することができ、失敗も少ない。栽培場所や日照時間が確保できない環境で育てやすい。実際に育ててみると、手入れがほとんどなく、実践題材としては物足りなさを感じた。授業で学んだものを実生活に生かす観点からも、題材として扱うのは難しいと判断した。

以上のことを踏まえ、今までの実践を分析していくと、ポットを使っている学校が多く、栽培しているものは、教師が与えたものを栽培している。そこで、自分たちの住む浦安市(学校)で植物を育てるためには、環境や時期、時間を考え、何を作ることができるか生徒が考えてから実習を行えば、自ら課題を見つけ工夫し、実生活にも生かすことができるのではないかと考えた。

平成30年度は、前年度の調査から、リーフレタスとミニトマトを多くの学校が栽培していたため、いずれかを学校ごとに選択する形で実践した。教材が共有でき、ある一定の収穫量や生徒の達成感を見込めると判断ができたが、栽培するものが偏ってしまった。

令和元年度は、何を栽培するかを限定せずに、各学校の実態に応じて、栽培するものを子どもたちが考えて実習を行うことにした。

## 5 実践内容

(1) 国土交通省気象庁の過去の気象データを使い、浦安市と他市（授業では近隣の船橋市）の月ごとの降水量、気温、風速、日照時間を比較し、自分たちの住んでいる浦安市はどのような気候であるのか考える。（資料1）

### 資料1 浦安市と船橋市との比較 ワークシート

新年度 2018年(月ごとの値)												
月	降水量(mm)			気温(℃)				風速(m/s)			日照時間(%)	
	合計	日最大	最大1時間	日平均	日最高	日最低	最高	最低	平均	最大瞬間		最大瞬間
1	52	22.5	0	4.1	9	-0.4	14.9	-4.1	1.6	7.3	15.6	209.8
2	18	0	1.3	4.8	9.4	0.4	14.7	-2.7	1.7	3.5	13.1	188.8
3	200.5	47	17.5	11	15.9	5.6	23.5	1.2	2.1	6.9	16	204.4
4	83.5	41	13	16.5	21.3	11.9	28.8	5.8	2.2	7.5	18.8	188.9
5	181	63.5	18.5	19.3	23.9	10	29.5	8.5	2.1	6.7	15	182.4
6	144	31.5	0	22	26	18.9	33.3	14.3	2	7.2	15.6	163.9
7	106	45.5	10	27.7	32.1	24.7	37.1	19.5	2.4	6.5	17.7	220.5
8	98	12.5	0	27.6	32.1	24.5	36.7	17.4	2.3	6.5	16.6	209.5
9	282.5	38	18	22.8	28.6	19.9	31.7	13.2	1.9	7.2	20	24.4
10	48.5	14	13.5	18.8	22.8	13.2	30.8	10.4	1.7	11	28.3	144.2
11	48	22	0	13.5	17.6	8.5	23	5.4	1.4	4.1	6.3	151.5
12	37.5	14.5	4	7.6	11.7	3.8	21.9	-1.1	1.5	5.9	14.4	143.7
年間平均	131.4	29.6	11.6	18.2	26	12.4	27.2	7.8	1.8	7.6	16.2	187.8
年間最大	128.5	49.9	14.4	21.4	25.6	17.6	31.7	13.8	2.2	7.8	16.2	197.7

浦安市に隣接する江戸川流域 2018年(月ごとの値)												
月	降水量(mm)			気温(℃)				風速(m/s)			日照時間(%)	
	合計	日最大	最大1時間	日平均	日最高	日最低	最高	最低	平均	最大瞬間		最大瞬間
1	48	18	6.5	5.2	9.7	0.9	15.7	-2.4	3.3	15.9	20.9	217.2
2	13.5	7.5	1.5	5.7	10	1.4	15.2	-2.4	3.1	13.1	12.1	171.6
3	179	51	19	11.5	15.9	6.8	22.1	2.4	4	15.4	19.2	202.4
4	73	36.5	11	16.6	21	12	25.9	6.2	3.2	20.1	27.2	209.8
5	147	41.5	19.5	19.5	24.4	15.9	29.1	9.9	4.8	19.8	22.1	201.1
6	131.5	38	7.5	22.2	28.7	19.5	29.6	14.4	4.4	18.3	22	178.7
7	53.5	51.5	16.5	21.6	30.8	25.7	36.4	18.3	5.6	16.6	21.6	259.4
8	95	18	4.5	27.7	31.1	25.1	35.9	19	5.2	18.1	22.2	240.7
9	324	67	49	23.3	28.8	20.8	31.9	14.9	4.3	20	29.7	109.2
10	41	14.5	8.5	18.6	23.1	13.5	29.1	12.4	3.3	29.4	28.3	145.5
11	51	31.5	10	14.6	18.1	11.4	23.5	6.5	2.6	6.5	12.2	151.8
12	31	12	4	8.7	12.9	5	22	-0.3	2.9	12.2	16.1	137.5
年間平均	135.3	32.6	12.4	19.9	26.6	13.4	31.4	10.4	4.1	19.6	24.4	202.6
年間最大	113.3	41.6	12.1	21.6	25.2	18.4	30.3	12.5	5.1	13.9	23.4	211.4

[参考資料:国土交通省 気象庁 過去の気象データ]

①降水量について

②気温について

③風速について

④日照時間について

※①～④の内容と実際に住んでいる自分の感覚を合わせて、浦安市はどのような気候であるといえるのか、まとめよう。

(2) 浦安市の土地において、農業を営む家庭数や、シェア畑や貸し農園などを行っている土地があるのか調べる。

(3) それらをもとに中学校の敷地内では、生物育成（栽培）が行える最適な場所はどこか、理由も含めて考える。また、自分の家であれば、どこになるかも考える。

(4) 浦安市の学校に適した栽培方法（土壌）を考える。

例：露地栽培・プランター栽培・鉢栽培  
袋栽培

(5) (1)～(4)を踏まえ、浦安市（自分）の学校に適した、育てられる作物は何か考える。

(6) 家庭で育てられそうな作物は何か考える。

(7) 生物育成（栽培）の実習を行う中で、環境面・経済面・社会面の3つの側面の中から、問題となる内容を調べたり、予想したりして、考えをまとめ、栽培目標を考える。

(8) 種・苗から作るメリット・デメリットを考える。

(9) 外・室内・ベランダでつくるメリット・デメリットを考える。

(10) 土を使った栽培と水を使った栽培のメリット・ト・デメリットを考える。

以上の内容で授業を展開し、自分たちは何を栽培するか考えさせた。

授業の時期や、学校の環境の違いもあり、生徒全員が同じものを作る学校や、生徒がそれぞれ作りたいたいものを作る学校があった。（表2）

表2 令和元年度浦安市公立中学校技術科生物育成の実践一覧

地域	場所	栽培方法	栽培しているもの
元町 2校	室内・ベランダ	水耕栽培（ポット）	豆苗
	ベランダ	水耕栽培（ポット）	ミニトマト・バジル
中町 4校	ベランダ	水耕栽培（ポット）	リーフレタス
	ベランダ	土壌栽培（ポット）	ミニトマト
	室内・ベランダ	土壌栽培（ポット）	枝豆・小松菜・ミニダイコン・トマト リーフレタス
	外	土壌栽培（鉢）	枝豆
新町 3校	ベランダ	土壌栽培（鉢）	ミニダイコン
	ベランダ	水耕栽培（ポット）	リーフレタス
	ベランダ	土壌栽培（鉢）	ピーマン・オクラ・ナス・ハツカダイコン

## 6 授業後のアンケートと感想

令和元年度、浦安市内で栽培を実施した学年から授業後にアンケートをとった。

(アンケート数、1196名)

- 授業で学んだことを生かして、自宅でも栽培ができますか？

[基準：できる→100～80% まあまあできる→79～60% あまりできない→59～40% できない→39～0%]

できる	まあまあ	あまり	できない
14.3%	49.6%	22.1%	14.0%

→浦安市の環境については、授業で概ね理解できたと思う。実際にやってみると新たな問題点もでてくると思うが、60%以上の生徒ができると回答した。

- 授業で栽培実習を行いました。その後、家で栽培を行いましたか？

[基準：できる→100～80% まあまあできる→79～60% あまりできない→59～40% できない→39～0%]

はい	いいえ
19.2%	80.8%

→約20%の生徒が授業後実践したと回答した。

栽培したものは、枝豆・トマト・ほうれん草・ミニダイコン・いちご・きゅうり・にんじん・レタス・豆苗・ジャガイモ・アボカド・ピーマン・ブロッコリーなど様々である。

- 授業で学んだことを生かし、日本のどの地域においても環境を調べ、栽培することができますか？

[基準：できる→100～80% まあまあできる→79～60% あまりできない→59～40% できない→39～0%]

できる	まあまあ	あまり	できない
6.6%	43.8%	33.8%	14.8%

→約50%の生徒が栽培できると回答した。実際にやってみないとわからないが、授業での実践があったからこそ、自分でできると答えた生徒が多くなったと考えられる。

### 資料2 生徒の感想

できる ・ まあまあできる ・ あまりできない ・ できない

授業で学び、得た技能や知識などを参考にし、上で選択した内容の理由について、具体的に答えてください。

天候や土地環境に合った作物がそれぞれあることを知り、その土地について事前に調べて、合った作物を育てるうえで上手に作ることもできると思うから。また、たねのまき方なども作物によってちがうという知識もあるので、あまり大きな失敗はほしくないと思うから。

できる ・ まあまあできる ・ あまりできない ・ できない

授業で学び、得た技能や知識などを参考にし、上で選択した内容の理由について、具体的に答えてください。

授業内で苗でやるのも種からやるのが、アランターでも、どこに置いたらよく育つかなどが聞かなくて知れたから。なのでその土地や環境にあった作物の栽培方法を選び、自分で細かいところも気にして、きながら栽培できると思ったから。

できる ・ まあまあできる ・ あまりできない ・ できない

授業で学び、得た技能や知識などを参考にし、上で選択した内容の理由について、具体的に答えてください。

授業で学んだことだけでは、まだ知識などが足りないと思ったから。植物の種類や植物が病気になったときにどうするかがあからないのでもっと学びたいと思いました。

## 7 成果と課題

令和元年度までの実践に基づいて研究をまとめると、生物育成の学習で、R-PDCAのR(リサーチ)を行うことにより、自分の住んでいる地域(浦安市)の気候がどういうものかがわかり、何を作ることができるのか考え、実習をすることができた。

将来、浦安市でなくても、栽培を行う土地の環境を調べ、その土地ではどういうものが作れるか、生物育成で身につけた、“課題を解決する力”を、実生活に生かしてほしいと考える。

また、家庭科と連携して、栽培した野菜を調理実習した学校もある。今後は、家庭科との連携を深め、野菜の栄養なども考えて栽培するものを考え、授業実践できるように研究を進めていきたい。

<引用・参考文献>

- 1) 文部科学省 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編
- 2) 浦安市ホームページ
- 3) 国土交通省ホームページ
- 4) 気象庁ホームページ

# 自ら考え、豊かな食生活をめざす生徒の育成

## ～地域素材を生かした食の実践～

千葉県君津地方技術・家庭科教育研究会  
君津市立周東中学校 教諭 小関 美郷

### 1 はじめに

本校の位置する小糸地区は、小糸川流域を中心に栽培がされている大豆「小糸在来」(以下、小糸在来と表記する)を特産品としており、地域の直売所には大豆をはじめ、さまざまな加工品が販売されている。また、地元の生産者団体が中心となって種子の栽培、選定などを手がけ、種まきや収穫祭を行うことで高い品質を守ろうとする活動も行われている。

そこで今回小糸在来という大豆に着目し、地域素材を生かした食に関する指導を計画した。小学校で調べ学習をした経験や学校給食で普段から食べている食材であることから、大半の生徒が小糸在来という食材があることは知っている。しかし、味や品質に関する特徴、地域食材を通しての歴史、この食材を守る地域の人々の存在や取り組みなど、知らないことはまだ多いのが現状である。そこで、まずは大豆という食材に親しむことから始めることとした。

本研究では、「自ら考え、豊かな食生活をめざす生徒の育成」を研究のテーマにしていることから、課題解決型学習〔①問題点の把握、②課題の設定、③情報の収集、④情報の整理と交換、⑤課題の解決〕の流れに沿って段階的に学習を深めることを計画した。小学校の2年間と中学校の家庭科で学習した知識・技能をもとに問題点を把握する。課題の解決には、小糸在来を使った調理実習やみそ作り体験等の体験的な学習を取り入れ、家庭生活に生かすことのできる学習を設定した。これらの活動を段階的に学習・体験することで、大豆という食材についての知識と関心を高めると共に、大豆を地域の食材と結びつけて考えることで、地産地消の推進をめざす態度を育てたい。そして、小糸在来を大切に守り伝えようとする地域の人々と関わることで、自分の住む地域への関心や郷土愛を育み、豊かな食生活について

自ら考えさせたいと思い、本研究主題を設定した。

### 2 研究のねらい

#### (1) 研究仮説

- ・課題解決型学習によって段階的に学びを深めることで、学んだ知識と技能を活用し、豊かな食生活をめざそうとする実践的な態度を育てられるであろう。
- ・地域の人々の協力によってみそ作りを体験することで、地域食材へ関心が高まり地産地消を推進する態度や、郷土愛を育むきっかけをつくることができるであろう。

#### (2) 生徒の実態

##### ① 地域食材に関する実態調査

(平成26年10月 2年生72人実施)

問1 小糸在来の長所を知っていますか。

はい85% いいえ15%

問2 小糸在来の長所を書きなさい。

(11人回答 自由記述)

- ・おいしい 10人
- ・粒が大きい 9人
- ・甘みが強い 2人
- ・小糸で作っている 2人
- ・栄養価が高い 2人

問3 小糸在来を意識して食べていますか。

はい4% いいえ96%

問4 小糸在来を意識的に食べない理由を書いてください。(65人回答 自由記述)

- ・食卓にあがらないから 31人
- ・味や食感が苦手 23人
- ・大豆料理を知らない 6人
- ・理由はない 5人

- 問5 地産地消は大切だと思いますか。  
はい76% いいえ24%
- 問6 地産地消が大切だと思う理由を書いてください。(55人回答 自由記述)
- ・地元だとおいしく感じる 16人
  - ・食の安全性 13人
  - ・地元の農家のためになる 12人
  - ・新鮮 8人
  - ・輸入などのコスト削減 6人

## ② 実態調査を基にした考察

問1で味に関することを記入した生徒が全体の14%、見た目に関するものは13%、その他5%であることから、小糸在来という名前は聞いたことがあり、小糸という地域名が入っていることで地域の食材であることは知っているが、具体的な特徴についてはほとんどの生徒が理解していないことがわかる。また、問3に対して、「はい」と回答した生徒はわずか4%で、普段あまり食べない理由については、家庭で食卓に出ないが65人中31人と最も多く、次いで味や食感が苦手、大豆の料理を知らないという結果が続いた。つまり、日常的に大豆を口にする機会が減っていることが、大豆という食品を身近に感じられない大きな原因ではないかと考察する。

## 3 実践の流れ

### (1) 指導計画 食生活と自立(11時間扱い)

課題解決過程 題材	学習内容と活動	時配
<b>問題点の把握</b> 地域と世界の食料事情	大豆の食料自給率を知り、地域食材である小糸在来と関連付けて考え、身近なところで食料自給率の増加のためにできることはないか話し合う。	1
<b>課題の設定</b> 地域食材をPRしよう	課題を設定する。また、課題解決のために必要なことを考える。	1
<b>情報収集・整理</b> 小糸在来を知ろう	大豆の栄養的特徴、小糸在来の味や生産に関する特徴、大豆料理など、調理やPRに必要な情報を分担して収集・整理する。	2

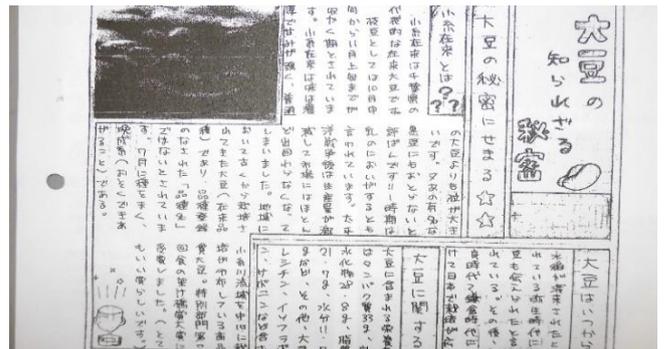
<b>情報の交換</b> 調べたことを発表しよう	グループごとに調べた内容や話し合った内容を発表し情報交換を行う。	1
<b>課題の解決1</b> 小糸在来D1グランプリ	自分たちで考えたメニューを調理し、小糸在来を味わうことで理解を深める。	3
<b>課題の解決2</b> 小糸在来を使ってみそを作ろう	地域食材を使った加工食品作りの体験を行う。	2
<b>課題の解決3</b> 活動のまとめをしよう	活動を振り返り、自分の日常生活に生かしたいことをまとめる。	1

## (2) 学習活動の概略

### ① 情報の交換 調べたことを発表しよう

小糸在来を幅広く理解し、PRすることを活動の目的としているため、学級を3つのグループに分けて活動した。D1グランプリのメニューを考える企画部、PRのための新聞作成や各メニュー表の作成を担う広報部、D1グランプリの審査基準決定や当日の運営にかかわる運営部の3部門である。

発表会は授業参観で行い、審査会(調理実習)に向けて企画部が考えたメニューの発表、広報部が作成した小糸在来に関する新聞の発表、運営部から審査会の審査基準について説明を行った。



### ② 課題の解決

#### ア 調理実習 小糸在来D1グランプリ

企画部が中心となって、4つのメニューを調理する。全員で試食をするため、小分けにしたもの40食分を用意する。調理時間は70分とした。

調理実習後に全員が4つのメニューを試食し、運営部が考えた審査項目に沿って評価をする。

限られた時間の中で全員が協力し、精いっぱい活

動する姿に体験的な学習の意義を痛感した。実習前日の放課後には生徒から申し出があり、分担の最終確認や審査用紙の印刷を自分たちで行った。調理の分担については、1年次の経験が生かされており、調理手順を見極めて空いている時間に片づけをする細かな計画までしっかりと立てることができた。

### イ 小糸在来を使ってみそを作ろう

学区内にある直売所（農業組合法人 なごみの里 君津）の方々に講師を依頼し、小糸在来を使ったみそ作りを体験する。すべての工程を体験することは難しいため、大豆をつぶし、こうじ菌、塩と混ぜ合わせ、樽に詰めるところまでを体験させる。その前後の工程については資料を用いて説明をしていただき、熟成や管理は直売所に協力をお願いしている。対象生徒が卒業する8か月後に、作ったみそを持ちかえらせる計画である。

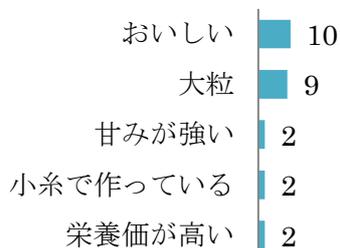


## 4 事後アンケート調査の結果と考察

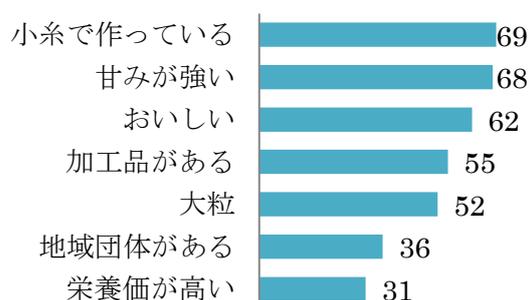
### 地域食材に関する意識調査の比較

問1 小糸在来の特徴で知っていることを書いてください。（自由回答、複数回答可）

事前 平成26年10月実施（72名中11名回答）



事後 平成27年7月実施（72名全員が回答）



事前・事後のアンケート調査結果の比較から、調べ学習で得た知識を活動報告会で発表したことや、調理実習、みそ作りなどの体験的な学習を通して振り返りを行ったことが、知識の定着に結び付いたのではないかと考える。小糸在来を意識して食べない理由の一因を解決するため、大豆料理を自分たちで考え、調理する授業を計画したが、結果的に知っている大豆料理の種類が増えただけでなく、実生活につながる糸口をつくることができた。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 課題解決型学習による学習意欲の向上

課題解決型学習によって段階的に学びを深めることで、地域食材に関する知識や技術を高めることができた。また、生徒の探究心に寄り添う指導を工夫したことで、学習意欲の向上にも大きな成果が見られた。

#### ② 学習活動の積み上げによる知識の定着

授業で積み重ねたワークシートを振り返ると、学習が深まるにつれて感想の量、内容の専門性が高まっていることがわかる。主体的な学習の充実や、体験学習後のまとめや意見交換による振り返りが導いた成果であると考えられる。

#### ③ 体験的な学習の有効性

身についた知識や技術を自分の家庭生活に生かす生徒が多く見られた。夏休み中に家で大豆料理を作った生徒や、大豆を意識的に食べようとする生徒が増えている。また、英語スピーチの原稿に小糸在来を取り上げるなど、他教科との関わりや生徒の視野を広げる取り組みになったことは、自ら考える生徒の育成へ結びつく成果であると考えられる。

#### ④ 地域食材および地域人材の活用による効果

地域の人材を活用することによって地域食材を守ろうとする人々の思いにふれ、地産地消の意識や郷土愛の意識などを高めることにつながった。給食のみそ汁に使われているみそが小糸在来のみそだと知り、ふとした時にみそ作り体験を振り返ったり、残さず食べようと声をかけたりする行動こそが、豊かな食生活をめざすために必要な第一歩であると確信している。

## (2) 課題

### ① 調べ学習の工夫

調べ学習の情報源がインターネットに偏ってしまった。図書室の利用や直売所へ足を運び地域の方から直接情報収集をするなど、一層地域性を感じる授業を展開することができたのではないかと考える。

### ② 調理実習の展開方法に関する工夫

審査会形式の調理実習は、得られるものが多かった反面、指導者一人ですべての調理を把握するのは厳しいと感じた。調理効率を上げるための手立てや地域人材・スクールボランティアの活用等の方策を考えていきたい。また、大豆を使った一食分の献立を立ててその調理を行う等、栄養の学習と関連付けて学びを深める工夫も検討したい。

### ③ 体験学習の時期の見直し

みそ作りは今後も継続したいが、熟成に必要な期間なども考慮し、2年次の1学期に実施するのが望ましいと感じた。熟成後、自分たちで仕込んだみそを使った調理を行うことでさらに実践が深まるので、年間指導計画の見直しを図り今後の実践につなげていきたい。

## 6 研究の発展

平成25年にはじめた地域の食材に関する本研究も、今年で7年目を迎えた。毎年の取り組みから成果と課題を検証し、活動の見直しや新たな取り組みを追加するなどして研究を継続している。

### (1) 小中高の連携による大豆の栽培体験

小糸在来の作付けは6月下旬に実施しており、千葉県立上総高等学校園芸科の先生方、生徒の皆さんより全面的にご協力いただいている。同じ学区である小糸小学校、中小学校も共に体験を行い、小中高の連携を意識した取り組みとなっている。収穫は毎年11月下旬に行い、小学校については枝豆として収穫するため、中学校の収穫より約1ヶ月前の収穫となっている。大豆として収穫した小糸在来は、脱穀・乾燥を経て、みそ作り用の乾燥豆となる。こうした取り組みは上総高校園芸科をはじめ、地域の活性化をめざし、小糸在来愛好クラブや君津市老人クラブ、小糸商店振興会などさまざまな団体が協力し、支えてくださっている。

### (2) 親子学習会によるみそ作り体験

みそ作り体験を親子学習会という形で実施した。食習慣の見直しは生徒だけの力では難しい面もあるため、体験活動通し食生活への関心を高めることや地域の食材・人々にふれてもらうことを目的としている。毎年多くのこの体験をきっかけに、地域の直売所に足を運ぶようになった家庭や、同直売所が開催しているみそ作り講座に参加した保護者もいる。

### (3) 手作りみそを使った調理実習

体験で作ったみそを調理実習において活用している。みそ汁については小学校で学習しているため、振り返りを兼ねてグループごとに使用するだしや実を工夫させ、3年生で実施している肉まんの調理と共に行った。また1年生において豚汁の調理を行う際にも、同じみそを使用している。3年生が作ったみそを使用しているということで大切に使う様子や、次年度自分達が栽培や仕込みに関わることを実感するよい機会となっている。

### ③ 小学校への出前授業

小学校との系統的な学習を充実させことも、目的に、栽培体験の前に出前授業を実施した。同小学校では、秋の収穫祭において収穫した枝豆を使ったずんだ餅づくりなどを行っており、小学校で枝豆、中学校で大豆といった段階的な指導の流れについて家庭科専科の教員と打ち合わせを行い実施した。

## 7 おわりに

平成29年7月に告示された中学校学習指導要領解説技術・家庭科編によると、日本の食文化への理解を深めるために、「B衣食住の生活」(3)「日常食の調理と地域の食文化」の項目について、「地域の食材を用いた和食の調理については、日常食べられている和食として、だしと地域又は季節の食材を用いた煮物又は汁物を取り上げ、適切に調理ができるようにする。」と示されている。また「指導に当たっては、地域との連携を図るように配慮する。」と明示されており、地域の食材や人材を活用した授業を工夫することが求められている。

これらの点も踏まえ、今後も本研究を継続することで知識や技能の習得はもちろん、学習を通して触れ合った人々の温かさや地域の良さ大切に、この地域に住む一人として、これらを守り続けてほしいと願う。

### 3 各部活動報告

#### (1) 研究部

##### 1 活動内容

- ・千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会における研究推進
- ・各支部における研究協力及び研究支援
- ・各支部における研究成果を集約した「研究のまとめ」の発行

##### 2 活動日程

令和2年

- |           |   |
|-----------|---|
| 5月12日(火)  | 第1回役員研修会<br>*新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、資料配付に代替                                 |
| 6月26日(金)  | 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会八千代大会並びに<br>総会・作品展<br>*新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、資料提案に代替 |
| 7月7日(火)   | 第2回役員研修会  |
| 9月25日(金)  | 第1回「研究のまとめ」編集会議及び令和6年度関ブロ千葉大会に関する検討会議                                       |
| 10月1日(木)  | 第3回役員研修会  |
| 11月13日(金) | 千葉県中学生創造ものづくり教育フェアに向けた役員研修会<br>*新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止                        |
| 12月11日(金) | 第2回「研究のまとめ」編集会議   |
| 1月8日(金)   | 第3回「研究のまとめ」編集会議   |
| 1月22日(金)  | 第4回「研究のまとめ」編集会議及び令和6年度関ブロ千葉大会に関する検討会議                                       |
| 2月12日(金)  | 第4回役員研修会  |

##### 3 取り組みについて

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、各支部を含め、例年行っていた活動が中止や縮小になってしまった。令和6年度関ブロ千葉大会に向けた準備も停滞してしまった。記録として例年作成している「研究のまとめ」は作成することにしたが、中身の薄いものとなってしまった。

##### 4 課題

- ・次年度全面実施される学習指導要領の実践に向け、各支部の研究活動に積極的に関わり、支援していく。
- ・令和6年度関ブロ千葉大会に向け、研究を推進し、各支部の研究活動を支援していく。

## (2) 情報部

### 1 情報部の活動内容

千教研技術・家庭科部会の Web ページ (GI☆KA CHIBA) の管理・更新を主な活動とする。

#### (1) 各支部のページについて

- ① 各支部からの更新データ (題材例など) について, 登録 (更新) とメニューへのリンクを行う。また, 要請に応じて各支部 Web ページ作成の支援を行う。
- ② 支部ページのデータ収集やページの作成, 更新データの送付は各支部の責任で行う。

#### (2) その他のページについて

- ① 主催・共催行事等の案内を中心に, 各部・事務局からの要請により, 部員や県外の先生方への情報提供を行う。
- ② 県総会, ものづくりフェアなどの開催の様子について取材し, Web ページ上で報告する。

### 2 活動日程

- (1) 7月 7日 (火) 第2回役員研修会
- (2) 10月 1日 (木) 第3回役員研修会
- (3) 10月 1日 (木) 千葉県中学校技術・家庭科作品展取材
- (4) 2月12日 (金) 第4回役員研修会

### 3 Web ページの更新について

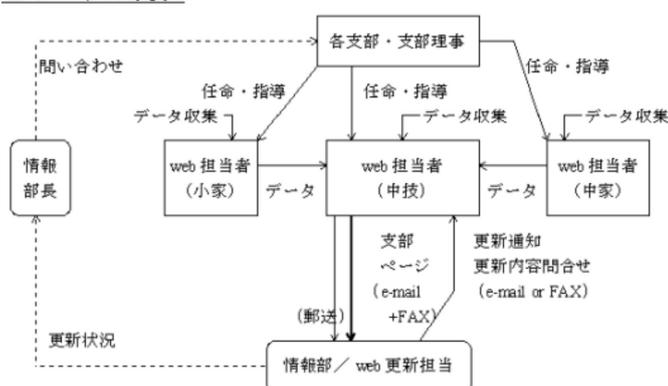
#### (1) 各支部ページの更新について

- ・支部ページは支部理事の責任で更新する
- ・Web 担当者は, 支部理事の指導のもとに年1回以上の更新を行う。
- ・支部トピックス (支部の紹介話題, 取組等) でデータを充実させる。
- ・他県や他支部に紹介する題材例の掲載。
- ・指導上有効な教具などについても積極的に掲載していく。



#### 各支部のページ作成に関するお願い

##### ○データの流れ



#### (2) その他のページの更新について

- ・他部門の要請があれば専用ページを作成する。
- ・トップページを中心に, 「ものづくりフェア」や研究大会等の情報を随時更新する。
- ・過去の研究大会における指導案を記録する「指導案アーカイブス」の準備を進める。

### (3) 課題

新学習指導要領に適合した、Web ページの修正が数年来の課題である。研修会などを通じて、内容の再確認をお願いしているが、支部から発信されている情報の修正（旧指導要領下の題材例など）がなかなか進まないのが現状である。

技術的に Web ページ更新が難しい支部等があれば、個別に対応可能である。

各支部 web ページ用データの送り方（随時登録・更新）

○ gikachiba.jyoho@gmail.com（千教研情報部専用アドレス）

### 4 今年度を振り返って

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、県総会、ものづくりフェアなどが中止となり、積極的な情報発信を行うことができなかったが、Web ページによる情報発信は、そのような状況下においても有効なツールであると考えます。

今後もより一層（GI ☆ KA CHIBA）の充実を図るために、各支部 Web ページ担当者や支部理事との連絡を密にして、製作を進めていきたい。また、研修会の折に支部の web 担当者の方々からいただいたアイデアを実現する努力をしていきたい。

#### 【令和2年度情報部】

部長：野村英二	所属：佐倉市立佐倉東中学校
副部長：佐野貴紀	所属：木更津市立清川中学校
部員：藤田伸平	所属：東庄町立東庄中学校
部員：依田実	所属：船橋市立御滝中学校
部員：菅整	所属：千葉市立大椎中学校
部員：君塚久美	所属：千葉市立美浜打瀬小学校

### (3) 中学校部

① 千葉県中学校技術・家庭科作品審査会（10月1日 県総合教育センター）

今年度は、「千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会並びに定期総会」が中止となったため、「千葉県中学校技術・家庭科作品審査会」として実施しました。

令和2年度 千葉県技術・家庭科作品審査会 入賞者一覧 ※学年は今年度のもの

No.	賞	作品名	生徒氏名	学年	学校名	備考
1	教育長賞	ドリームボックス	高橋 美優	3年	柏市立柏第二中学校	
2	振興会長賞	オリジナル小物入れ	藤乗 さくら	2年	茂原市立東中学校	R3全国・関東候補
3	振興会長賞	本立て	千葉 楓恋	2年	茂原市立東中学校	R3全国・関東候補
4	振興会長賞	六角箱	内田 怜那	卒業生	千葉市立都賀中学校	
5	振興会長賞	木箱	長谷川 新太郎	2年	鴨川市立安房東中学校	R3全国・関東候補
6	振興会長賞	棚付き本立て	高橋 悠来	2年	富津市立大貫中学校	
7	振興会長賞	スライド本立て	渡邊 理世	3年	八千代市立八千代台西中学校	
8	振興会長賞	いす型飾り台	小齊 斗尊	2年	市原市立双葉中学校	
9	振興会長賞	小物入れ	森田 颯太	2年	千葉市立みつわ台中学校	
10	振興会長賞	世界に1つの宝箱	五十嵐 好咲	2年	佐倉市立南部中学校	
1	教育長賞	変身するバッグ	野原 沙耶	3年	千葉市立小中台中学校	
2	振興会長賞	バッグとパスケース	竹本 美月	3年	千葉市立葛城中学校	
3	振興会長賞	オリジナルバッグ	北村 優衣	2年	君津市立君津中学校	R3全国・関東候補
4	振興会長賞	ユニバーサルデザインバッグ	大友 陽奈	3年	千葉市立小中台中学校	
5	振興会長賞	トートバッグの製作	植村 翔	2年	千葉市立泉谷中学校	R3全国・関東候補
6	振興会長賞	リバーシブルトートバッグ	新井 佳恵	3年	船橋市立船橋中学校	
7	振興会長賞	リバーシブルトートバッグ	室井 美波	卒業生	船橋市立船橋中学校	
8	振興会長賞	どうぶつえほん	小泉 菜々子	卒業生	野田市立南部中学校	
9	振興会長賞	Delicieux Voyage en France	長沼 夏凜	3年	松戸市立六実中学校	
10	振興会長賞	防災頭巾	戸部 桃花	3年	八街市立八街中央中学	



教育長賞  
ドリームボックス  
柏市立柏第二中学校  
3年 高橋美優さん



教育長賞  
変身するバッグ  
千葉市立小中台中学校  
3年 野原沙耶さん



オリジナル小物入れ 藤乗さくらさん



バッグとパスケース 竹本美月さん



本立て 千葉楓恋さん



オリジナルバッグ 北村優衣さん



六角箱 内田怜那さん



ユニバーサルデザインバッグ 大友陽奈さん



木箱 長谷川新太郎さん



トートバッグの製作 植村翔さん

#### (4) 小学校部 (支部数 12 会員数 115)

千葉県小学校家庭科教育研究会 活動概要

今年度は、11月27日に千葉市立美浜打瀬小学校において第37回千葉県小学校家庭科教育研究会千葉大会を開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症大防止のため中止とし、紙面発表を行うこととした。紀要作成のため事務局会議を行った。

### 1 研究の概要

#### 千葉県小学校家庭科研究会研究主題

家庭生活を見つめ、豊かな家庭生活を創り出す家庭科教育  
— 学び合い、関わり合いながら生活をよりよくする児童の育成を目指して —

#### めざす児童の姿

- 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている子
- 日常生活の中から課題を設定し、課題を解決する力を身に付けている子
- 家庭や地域との関わりを考え、生活をよりよくしようと工夫する子

#### 研究の視点

##### 視点1

###### 指導計画の工夫

- (1) 2学年間を見通し、中学校との系統性をふまえた指導計画
- (2) 他学年及び他教科等の内容との関連
- (3) 家庭や地域との関わりを大切にした題材構成

##### 視点2

###### 関わり合いながら学びを深める学習指導の工夫

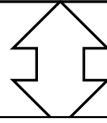
- (1) 学習過程を工夫した問題解決的な学習
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
- (3) 思考過程を可視化できる思考ツールやワークシートの活用

##### 視点3

###### 自己の成長を実感できる評価の工夫

- (1) 資質・能力を高めるための評価計画の作成
- (2) 自分の成長に気付く評価の工夫 (自己評価・相互評価・保護者評価等)

# 持続可能な社会の構築に向けた教育



## 家庭科で目指す資質や能力

### 知識・技能

日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能

- ・家庭生活と家族についての理解
- ・生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解と技能
- ・消費生活や環境に配慮した生活の仕方についての理解と技能

### 思考力・判断力・表現力等

日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力

- ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力
- ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する力
- ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する力
- ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力

### 学びに向かう力・人間性等

家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度

- ・家庭生活を大切にしている心情
- ・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度
- ・生活を楽しまうとする態度
- ・日本の生活文化を大切にしようとする態度

## 2 本年度の活動

- 5月24日（土）事務局会 （松戸市立上本郷小学校）
- 7月11日（土）事務局会 紀要準備（千葉市立磯辺小学校）
- 9月5日（土）事務局会 紀要準備（千葉市立磯辺小学校）
- 10月7日（水）関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会茨城大会 中止
- 10月15日（木）小学校家庭科授業校内研究会（千葉市立美浜打瀬小学校）
- 10月29日（木）小学校家庭科授業校内研究会（千葉市立美浜打瀬小学校）
- 10月31日（土）事務局会 紀要準備（千葉市立磯辺小学校）
- 11月27日（金）全国小学校家庭科教育研究全国大会東京大会 中止  
千葉県小学校家庭科教育研究大会千葉大会 中止
- 12月5日（土）事務局会 紀要準備（千葉市立磯辺小学校）
- 12月28日（月）事務局会 紀要準備（千葉市立磯辺小学校）
- 1月16日（土）事務局会 紀要準備（千葉市立磯辺小学校）
- 2月 県小家研だより発行 予定
- 3月 事務局会・次年度計画

## 3 成果と課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大のため、様々な大会が中止となった。
- 自粛期間中に、家族とのコミュニケーションを大切に考えるようになったことは、家庭科が見直されているととらえている。
- 新学習指導要領が全面実施となり、授業の改善や指導計画の作成が重要であり、実践的な活動を、学習の中に位置づけるための工夫も必要だと考える。

## 4 各支部活動報告

### (1) 千葉支部 (学校数：55校 会員数：技術科44名，家庭科40名)

#### 技術分野

##### 1 千葉支部研究主題

よりよい生活や持続可能な社会の構築を目指して，生活を工夫し創造する実践的な態度を育成する技術・家庭科教育の在り方 ～見方・考え方を働かせる学習を通して～

##### 2 主題設定の理由

本教科の目標にある「よりよい生活」を実現するために，社会で求められている「持続可能な社会」の構築について学校教育ができることを視点に学習内容の在り方について研究を進めたいと考え，主題を設定した。学習への関心・意欲の向上や学習した内容を生活に活かすことができるよう，生徒にとって身近であると感じられる題材を設定し，生活に取り入れられるような授業展開の工夫をした。生徒が必要な知識，技能を身に付けつつ，「技術の活用」が進められるような技術・家庭科教育の在り方の研究を目指した。

##### 3 研究の概要

###### (1) 研究仮説

- ① 3年間を見通し，環境との関連が図れる題材を系統的に配列すれば，技術の見方・考え方を働かせて課題を解決する力の基礎となる知識・技能の定着が図れるだろう。
- ② 実践的・体験的な学習活動の中で，意図的に環境に関連させた学習の場を増やせば，現代的な課題に対する「技術的な課題解決力」が身に付くであろう。
- ③ 生徒を惹きつける題材や学習過程の工夫を図れば，学習に対する成就感・達成感が高まり，実践的な態度が身に付くであろう。

###### (2) 研究の計画 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

4月 年間計画            5月 指導案検討    6月 授業研究    8月 県教研提案検討  
9月 指導案検討    10月 施設見学    11月 授業研究    1月 年間のまとめ

#### 家庭分野

##### 1 千葉支部研究主題

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成

##### 2 主題設定の理由

技術・家庭科では，社会の変化に主体的に対応する力や，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造する力の育成を目指している。そのためには，生徒自身が自己の現在や将来を考え，よりよい生活を追求していく力を培うことが必要である。現在，社会の急激な変化や科学技術の著しい進歩に伴って，人々のライフスタイルも多様化している。このような状況の中で，多様な意見を取り入れることで，よりよい生活を目指していこうとする意識を高めていきたい。生活上の課題に対して自ら判断し，課題を解決するためにも，多様な意見に触れ，物事を多角的にとらえる力を培うことが求められている。

##### 3 研究の概要

###### (1) 研究の視点

研究テーマを解明するために，研究の視点を立てた。

- ① 家庭分野における持続可能な社会のとらえ方            ② 話し合い活動の工夫
- ③ 問題解決的な学習の取組

###### (2) 研究の計画 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

4月 年間計画            5月 指導案検討    6月 授業研究    8月 研修会  
9月 指導案検討    10月 授業実践    11月 研修会    1月 年間のまとめ

## (2) 市原支部 (学校数 22校 会員数 技術科8名 家庭科13名)

### 1. 市原支部研究主題

「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

### 2. 研究及び活動の概要 (これまでの研究の過程)

平成29年度、技術・家庭科部会では「よりよい生活や社会の実現に向けて、自ら課題を見つけ、解決する力を育む学習指導の在り方」という研究主題を設定し、千葉県教育研究会 技術・家庭科研究大会(市原大会)を国分寺台中学校で開催した。急速な社会の変化に対応するためには、自ら課題を見つけ解決できる力を身につける必要がある。人に言われたことを進んで取り組む姿勢だけではその力をつけることはできない。必要なことを自分で判断して取り組む姿勢、いわゆる「生きる力」を育むためには「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点で学習指導の在り方の研究を行った。技術科ではタブレットを活用し、かんなの使い方を発表するという授業、家庭科では、地域の食材と食文化についての授業を発表した。また、学習指導要領の改訂により、小学校での情報教育・プログラミング教育の必修化に向けて、小中連携の観点から、中学校技術科部会として、小学校でのプログラミング教育をサポートするという提案を行った。実際に、国分寺台地区で一昨年度は試行的に中学校の技術科教員が、同地区内の小学校で数時間プログラミングの授業を実施した。今後は、この小中連携をどのように市内全域に広げていくかが大きな課題であるが、中学校技術科の存在価値を高める上でも効果的な小中連携事業となる可能性を秘めていると考える。

### 3. 本年度の研究、活動内容

月	日	曜日	おもな活動内容
4	23	木	定例集會中止・年間計画, 組織づくり
6	9	火	定例集會中止・提案レポート検討, 情報交換
6	26	金	千葉県教育研究会 技術・家庭科研究大会中止 (八千代中)
7	28	火	定例集會中止・中学校技術・家庭科実技研修会
8	20	木	定例集會中止・提案発表
10	22, 23	木, 金	関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会中止
11	7	土	千葉県教育研究集會中止
11	14	土	千葉県中学校創造ものづくりフェア中止 (総合教育センター)
11	19	木	定例集會中止・授業研究
1	22, 23	土, 日	市原市小中技術家庭科作品展覧会 (アネッサ・一般公開なし)
2			千葉県木工作品展中止

### 4. 成果と今後の課題

本年度、市原支部では新型コロナウイルス感染防止のため5月31日まで学校が休校となりその後、市教育研究集會も年間通してすべて中止となり、計画していた上記の活動も実施できなかった。技術・家庭科の部員は各学校1人程度であり、校内では相談・共働する機会は少なく、市教研は貴重な時間であり、本年度の空白はとても大きな損失と考えられる。

また、市中学校技術・家庭科作品展については一般公開を中止し、役員で審査を実施する予定である。来年度は新型コロナ感染が収束し、いつも通りの教育活動が実施できることを願いたい。

### (3) 習志野支部 (学校数中学校7, 小学校16, 会員数 技術科7名・家庭科7名)

#### 1. 習志野支部研究主題

学びを生かし豊かな生活を創造する技術・家庭科教育  
～体験的な活動を通し、実践力を育成する指導を目指して～

#### 2. 主題設定の理由

技術・家庭科では、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の習得を通して生活と技術のかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことが目標として掲げられている。また、「家族と家庭に関する教育の充実」「食育の推進の観点から食事の役割や栄養・調理に関する内容の充実」「ものづくり教育の充実等の観点から技術の評価、エネルギー変換や生物育成の技術に関する学習の充実」といった内容の改善について示されている。このように技術・家庭科教育では、今まで以上に社会の変化に対応できる能力の育成が求められている。

社会の急激な変化や情報過多の中、授業の中で生徒の学習結果がすぐに生きて働く力にはなりにくい今日、知識・技能の習得とともに問題解決に向けて見通しをもって取り組む力をつけていくことの重要性が浮かびあがってきた。生徒が問題にぶつかったとき、自らの力でその問題を解決するためには、問題を分析し、その解決方法を考え、解決に向けて取り組む意欲が持てるかどうかにかかってくる。授業において、生活の様々な場面で生徒が直面する課題を解決するための学習内容の充実と工夫は不可欠であり、学習した内容を積極的に日常の生活に生かし、問題解決能力を高めていくことができるように指導していくことが重要であると考え、本研究主題を設定した。

#### 3. 研究の概要

##### (1) 研究計画

回	月 日	内 容	会場
1	4月21日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
2	5月19日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
3	6月16日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
4	8月18日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
5	9月15日	各学校で資料を送っての情報交換	
6	10月13日	各学校で資料を送っての情報交換	
7	1月26日	今年度のまとめ 次年度の計画	第七中予定

#### 4. 研究内容 (9月, 10月の各学校での情報交換から)

##### (1) コロナウイルス対策についての情報交換

###### ①各学校でのコロナ対策を特別教室においてどのように行っているか

(座席 機器等の消毒 進め方 (学習との内容))

- ・できるだけ机を離し、作業台はパーテーションで仕切っている。
- ・アルコール消毒 (機械の手が触れるところ・入室前の手) を行う。
- ・密を避けるために、前に集めての師範は行わず、事前に撮ったビデオを見せたり、ICT 機器を使ったりして説明する。班ごとに人数を少なくして説明に回る。
- ・透明シールドで対面、隣との仕切りを作り、授業を行っている。授業終了後に消毒作業を行っている。被服の作品製作を被服室と調理室に分かれて作業を行っている。
- ・機器の消毒は行わず、特別教室入室時に手洗いと手のアルコール消毒を実施している。
- ・年間計画を変更し、今年度実施内容を一部 (栽培を1年から3年時に) 変更した。
- ・家庭科は全学年教室で授業実施。全員同一方向を向いて授業を行った。

- ・入退室時に手洗いと消毒をさせた。
  - ・機械は手に触れるところを消毒し、貸出し工具は使用後に教師がその場で消毒を実施した。
- ②休校中の課題について（実習課題は出したか・内容は何か）
- ・家庭での安全対策を探す。
  - ・家でできる手伝いをする（料理・掃除等）。
  - ・家庭での料理の実践，インターネット上で行えるプログラミング体験。
  - ・インターネット上で行えるキーボードタイピング練習。
  - ・2年生の「食生活」は調理実習を行わない代わりに，まとめとして大型TVを使って全員「給食献立発表会」を行いました。また，ところどころで栄養教諭に入ってもらい「朝食の役割」「給食ができるまで」の授業をした。
  - ・休校中に行った家の手伝いを「お手伝いメモ」として提出させた。
  - ・マスクの作り方をインターネットで検索（技術分野）し，製作させた。
  - ・幼児の体の発達について，教科書を見てまとめるワークシートを準備した。
  - ・衣服の洗濯をさせた。（洗濯機を使用した家庭で行う実習）
- ③学校再開後の授業内容の変化（授業時数が短くなったことにどのような対策を行っているか）
- ・作業工程が少ないものに教材変更した。（例）スタンドライト→行灯
  - ・調理実習ができないので，動画を撮り，説明だけする予定。
  - ・師範する時間を動画などに代え，時間短縮を図った。
  - ・治具や工作機械を製作し，作業能率向上を図っている。
  - ・被服実習を短時間でできる内容とした。
- ④今後（来年度以降も含めて）の習志野教育研究会技術・家庭科部会において行ってみたいこと
- ・新学習指導要領実施にあたって考慮すべきことを共有する。
  - ・授業で行える実習や作業の方法やアイデアを教えてください。
  - ・新学習指導要領完全実施を見据えた評価等の勉強会。
  - ・五市合同作品展の見学会。
  - ・ICTを活用した授業を行うための教材づくり（タブレットをホワイトボード等の代わりに使えるようにするなど）。
  - ・新学習指導要領に則した3観点での評価の在り方についての話し合い。教育事務所，県教育委員会などに打診したが学校単位での研修は引き受けることが難しいとのことでした。習教研であれば複数校が集まっての研修になるため，依頼していただきたい。

## 5 まとめと次年度への課題

本年度は，新型コロナウイルス感染防止の観点から研究授業などが行えなかった。しかし，学びを生かし豊かな生活を創造する技術・家庭科教育の実践がこの状況下だからこそできているとも考えられる。生活様式が変わり今までのような実習作業を行うことは難しくなったが，安全を第一に考え教師が工夫をこらし，困難な場面でもよりよい生活を目指している姿を生徒に見せることができたからだ。また，社会生活，特に対面販売を行うような店舗やレストランなどではアクリルボード等で手製の飛沫感染防止品を作り，安全対策を行っている。これらの製品を作るようなことを想定した授業は行っていないが技術や家庭科の授業を通して問題解決学習が生かされているとも考えられる。

研究内容として，各学校での実践を取りまとめてみた。授業数確保の見通しが立てられない部分もあり，学習内容や時期を変更して柔軟な対応を行っている学校が多い。また，学校によってはホームページに授業内容を動画で撮影し，いつでも課題や作業ができるように対応することができていた。ICTを活用し，学習に後れを出さない工夫が行われている。予習としても学習ができるため，短時間でも基礎的・基本的な内容を定着させることができたと考えられる。

また，家庭科ではマスクづくりや食生活を見直す課題等を活用し，健康に留意する習慣や食事のとりかたを実践でき，深く考える場面が身近にできた。

これからの新しい生活様式を意識した授業実践やICTを活用しての研修会などが今後も行えるとよいと考えられる。なお，学習指導要領の改訂による3観点での評価の在り方については部会としても検討していく必要があると感じられた。今後の活動も積極的に臨みたい。

## (4) 八千代支部 (学校数 11校, 会員数 技術科 9名 家庭科 7名)

### 1. 八千代支部研究主題

確かな知識と技術を身につけ、学んだことを次の学習や生活に生かすことのできる力を育む指導の在り方

### 2. 主題設定の理由

技術・家庭科では「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」を目標としている。これは、基礎的・基本的な知識と技術を習得すると共に、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指している。生徒が生活を自立して営めるようにするとともに、自分なりの工夫を生かして生活を営むことや、学習した事柄を進んで生活の場で活用する能力や態度を育成することである。

また、社会において自立的に生きる基礎を培う観点から、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を確実に身に付けさせるとともに、生活を工夫し創造する能力を育成するなど、「生きる力」を育むこと。更には、ものづくりを支える能力などを一層高めることや自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、これからの生活を見通し、よりよい生活を送るための能力を育成することも目指している。

これからの社会を生き抜く生徒にとって、実践的・体験的な学習活動を通して、生徒が自立して主体的な生活を営むために必要とされる基礎的・基本的な知識と技術を習得し習得した知識と技術を積極的に活用し、生活を工夫したり創造したりする能力と、実践しようとする意欲的な態度を育てるため、生徒が意欲を持って主体的に取り組み、創意工夫することのできる「題材開発」や「指導方法」について研修していく事が重要であることから本主題を設定した。

### 3. 研究の概要

#### ・八千代市作品展準備要綱検討

本年度、2月の開催予定であるが、マイスターの方を招いての体験的な取り組みを行う講座を含め、開催自体どうなるかが未定である。

#### ・新学習指導要領を踏まえた年間指導計画の作成

八千代市としての方向性を検討する。

#### ・五市合同技術・家庭科作品展要綱検討

各学校での出品作品の検討

## (5) 船橋支部 ( 学校数 27 会員数 技術科 25名 家庭科 19名 )

### 1 船橋支部研究主題

技術 : 生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成  
～主体的・対話的で深い学びを通して～  
家庭 : 安心・安全・快適を目指した住生活の指導法の研究  
～主体的・対話的で深い学びについて～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 技術

日本社会は、グローバルかつ急激な経済発展と技術革新で大きく変貌してきた。特に最先端技術について、持続可能な未来を見据えた地球規模で自然環境との共存を目指したものや社会や経済に対して貢献できるものが多くあり、世界から注目されている。

しかし、いまだに消費社会が振興していて、自らものづくりをする場が減少している。また、学校での技術・家庭科についても、配当授業時数が少なく、技能の習得と深化を図ることが難しくなっている現状である。

このような社会であるからこそ、ものづくりを通して実践的・体験的経験から得るものが多い技術・家庭科の存在意義は重要である。社会の急激な変化に自ら積極的に対応し、生活に生きる力を育むためには、生涯にわたって学習の基礎となるような、知識及び技能を習得させ、さらにその能力を高め習熟させることが大切であり、そのための手だてを研究する意義は大きい。

そこで、3年間の授業を通じて基礎的な知識と技能を繰り返し学習することと、授業の工夫を行うことで、ものづくりに関する能力を定着させるとともに、しっかり作られたものを長く使用することで自然環境の保全を実践し、社会・経済への貢献する態度の育成を図っていく。

また、実習等の結果を整理し考察することや、設計図や回路図といった図表及びものづくりに関する概念などを用いて考えたり、説明したりすることなど、言語を通じた学習活動を充実することにより「思考力・判断力・表現力等」の育成を図っていく。

#### (2) 家庭

今日、ほとんどのものが既製品化され、生徒の生活も家事労働の社会化や機械化にとともに、家庭における体験が乏しくなっている。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる時代となった。家庭科の学習は生徒の関心や有用感が高い一方、家庭生活の一員として協力することへの関心が低く、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。その中で、自分らしく、かつ便利に、合理的に生活していくためにも、技術・家庭科の授業が重要になっている。

特に、令和3年度に行われる関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会に向けて、衣食住の分野についての科学的な理解を図り、実践的・体験的な学習活動を通して、それらに係る技能を身につけさせることを目指す。加えて、生徒が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活の中から見いだした課題を解決する力、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造しようとする態度を育成することを目指し、本研究主題を設定した。

### 3 研究の概要

研究内容 (各月 上段：技術 下段：家庭)

月	日	研究種別	研究内容	会場
9	30	総会	役員選出・研究主題・年間計画の検討	古和釜中学校
10	21	全体研修 全体研修	双方向性のあるコンテンツのプログラム 関ブロ発表に向けた住生活の指導法の研究	八木が谷中学校 七林中学校
11	18	全体研修 全体研修	「プログル技術」を活用した指導について 3観点の評価方法について 講話：外部講師	古和釜中学校 宮本中学校
1	13	授業研究 全体研修	栗山達也教諭「情報に関する技術（3年）」 R3年度シラバス作成について、R2年度のまとめ	三田中学校 飯山満中学校
2	3	全体研修 全体研修	新学習指導要領の評価について 講話：外部講師 新しい教科書の変更点について 講話：外部講師	御滝中学校 七林中学校

### 4 成果と課題

#### (1) 技術

##### ①成果

- ・コロナ禍で9月より例会を行うことができた。新学習指導要領の完全実施に向けて、研修の企画・運営を行った。新しい学習内容の「双方向性のあるコンテンツのプログラム」について外部講師を招いて2回研修し、指導の準備を進めることができた。また、4観点から3観点になった学習評価についても外部講師を招き、市内で共通理解を図ることができた。

##### ②課題

- ・新学習指導要領に沿った年間指導計画や評価計画についての検討が必要である。
- ・GIGAスクール構想の前倒しで、1人1台のノートパソコンが設置される。その活用方法について検討が必要である。

#### (2) 家庭

##### ①成果

- ・コロナ禍で9月より例会を行うことができた。関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会に向けて、各学校で取り組みを始めることができた。
- ・新学習指導要領改訂に向けて、特に3観点の評価について外部講師を招いて研修し、さらに来年度のシラバスの内容を具体的に検討し、市内で共通理解を図ることができた。

##### ②課題

- ・コロナ禍で、話し合い活動が思うように行かない中、来年度から1人1台のノートパソコンをどのように活用して、対話的で深い学びに繋げられるかの検討が必要である。

## (6) 市川支部 (学校数 19校 会員数 技術科 17名 家庭科 15名)

### 1. 研究主題

生活や技術を工夫し創造する思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の在り方  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

### 2. 主題設定の理由

市川市では以下の視点を重視した授業改善について、3つの目標が掲げられている。

- ①生徒自身が見通しをもって自らの学習を振り返り次につなげる「主体的な学び」の実現
- ②他者との関わりの中で、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」の実現
- ③学習の過程の中で、問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」の実現

これらをふまえ、生徒が主体的に問題解決を図り仲間の力を借りながら、あるいは互いに協働しながら、思考力・判断力・表現力を高め深い学びを経験していくことが、今後の技術革新の進んだ社会で生き抜く力を身につけていくための大切な一歩と考える。

### 3. 研究の概要

#### (1) 技術科分野

月	日	研究種別	研究内容
9	9	定例研	年間計画の作成と検討, 部会組織決定
11	11	定例研	工作機械を用いた木材加工
2	10	定例研	新指導要領に対応した評価の方法について 研究のまとめ, 次年度の方向性の検討

#### 11月 (工作機械を用いた木材加工)

若年層や臨時免許による技術担当者が増えている中、今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、葛南地方技術教育センターによる研修が中止になった。

そのため、実技研修の実施と教員の技術の向上を目的として本研修は行われた。

今回は丸のこ盤やスライド丸のこ、卓上ボール盤などの工作機械の使い方や活用方法について情報交換を行いながら、「スタイリッシュボックス」(鏡の付いたボックステッシュ入れ)の製作を行った。

特に丸のこ盤は素早く、正確に切断することができるため教材の準備等に役立つ。しかし、キックバック等使い方を誤ると使用者のみならず周囲にも怪我に繋がる事故を引き起こす危険性もあるため、使用方法とともに周囲への安全指導も必要である。実際に工作機械を使いながら、使用方法や危険性を確認する良い機会となった。

また、実物投影機の活用方法や、けがきや切断のための治具の作り方など生徒の作業を円滑に行うための工夫も共有し、指導方法の幅を広げることができた。



## (2) 家庭科分野

月	日	研究種別	研究内容
9	9	定例研	年間計画の作成と検討，部会組織決定
11	11	定例研	新学習指導要領実施に向けての評価の在り方 講師 船橋市教育委員会指導主事 折笠知子先生
2	10	定例研	研究のまとめ，次年度の方向性の検討

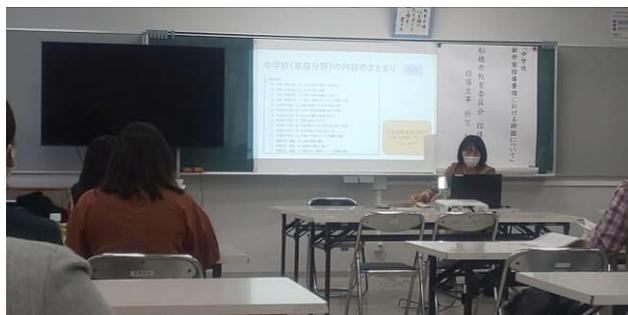
今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，定例研の実施回数が大幅に減ってしまいました。

今年度の取り組みの課題として挙げたのは，「少ない定例研で充実した研修にするためにどうしたらよいか」「新型コロナウイルス感染症予防のため家庭科の実習が制限されている中で，どのように学習を進めたらよいか」「(昨年度研究大会を行った上で)数年後の大会に向けてどのように研究を積み重ねていくべきか」であった。

喫緊の課題として，来年度から実施される学習指導要領に向けて評価が4観点から3観点に変更されるにあたって「どのように変わるのかをきちんと理解したい」という意見から，11月の研修では船橋市教育委員会から折笠先生をお招きし，ご講話をいただいた。

新学習指導要領が施行されるのは来年度からであるが，今年度授業していきながら「こういう指導を行ったらこういう評価を行おう」と意識して記録したりして来年度にスムーズに移行したり，4観点から3観点へと変化することなど，資料とパワーポイントを使って分かりやすく教えていただくことができた。

また，2月のまとめの際，来年度へ向けての活動の内容や関東ブロック大会へ向けての研究を進めていくことへの意見交換を行う予定である。



## 4. 成果と課題

### (1) 技術科分野

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために研修の機会が減ってしまいましたが，情報交換や授業実践報告などの研修を行うことができ，授業実践に活かすことができた。また，実技研修を通して安全指導の在り方や実際の機械の運転の仕方等を確認できた。

今後は新しい生活様式や新学習指導要領に対応した授業の形や評価方法についても研究し実践していく必要があると考える。研修会の回数が以前のようになれば市川工業高校との連携や専門家の方に指導していただく機会などを持ち，より指導技術の向上に努めたい。

### (2) 家庭科分野

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため定例研が少ない回数となってしまったが，来年度の新学習指導要領施行に向けて内容を理解し授業の組み立てを考えることができた。今後は新しい評価を組み入れた授業への再構成をしていくことが急務である。また，基礎・基本を踏まえた実技研修も行っていきたい。

## (7) 浦安支部 (学校数 9 会員数 14 技術分野 7名 家庭分野 7名)

### 1 浦安支部研究主題

生徒が意欲的に取り組み、基礎技能を向上させられる題材の工夫

### 2 主題設定の理由

本市は学習指導要領の目標のうち、特に以下の3つ目標において研究を進めてきた。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関する技能を身につけるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

新学習指導要領の完全移行も目前に迫り、それぞれの学校で試行錯誤してきたことによる成果と課題が明確になってきたことや若年層教諭の増加のため、市として新指導要領に即した題材の工夫が必要と考え設定した。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究計画

回	月日	場所	内容
1	5/13	書面のみ	定期総会の内容 部会組織案提示 今後の活動について
2	6/17	浦安中	研修計画作成
3	10/21	技術分野：日の出中学校 家庭分野：富岡中学校	教材研究
4	11/4	浦安市文化会館	教育講演会
5	1/20	技術分野：日の出中学校 家庭分野：明海中学校	教材研究
6	2/3	富岡中学校	年間のまとめ・紀要原稿作成

## (2) 研究内容

### ① 技術分野

新学習指導要領の「C エネルギー変換の技術」に焦点をあて、LED懐中電灯を製作した。懐中電灯本来の前方を照らす機能に加え、CdS を利用した常夜灯機能とダイナモ発電によるリチウムイオン電池への充電機能を付けた。

### ② 家庭分野

それぞれが実践し、有用だった教材についての情報交換を行った。特に ICT を効果的に利用できた授業について共有した。また、経験の浅い教員も多い中で他の研修が中止になっていることを踏まえ、模擬調理実習を行った。

## 4 成果と課題

### (1) 技術分野

近年、自然災害に対する意識の高まりもあるが、緊急時用の懐中電灯としては必要最小限の機能で心許ないと思われる。しかし、エネルギー変換の技術を指導する面では十分ではないだろうか。

課題は本題材よりも市販品の方が優れているということである。市販品にある機能を追加するならば、USB ポートからの携帯電話への充電機能やラジオ機能が考えられるが、予算の問題等もあり、検討が必要である。また、木製の外枠によって製品が巨大化してしまい、重量や持ちやすさの面においても改善が必要である。

製作してみて、よりよい製品にするために改善点等を考える視点を持つよい機会となった。

### (2) 家庭分野

各校で実践した ICT 機器を活用した授業の情報共有をした中で、すぐに実践できるものも多く、それに関しては、ICT 支援員を通して共有していくこととなった。今後、個々がよりよい授業展開を考え実践し、深めていく。また、模擬調理実習では、留意点を多くの教員で確認することで、経験の浅い教員にとってとても有用な時間となった。

課題としては、新学習指導要領の改訂に伴う評価の方法があげられ、今後積極的に検討を行っていくこととする。

## (8) 東葛飾支部

(学校数 中学校 7 2 校 小学校 1 4 5 校)

### 1. 研究テーマ

確かな知識と技術を身につけ、社会の変化に対応し、生活に活かす力を育む学習指導のあり方

### 2. 研究テーマ等について

これまで、東葛飾地区の技術・家庭科部会において、数年前から様々な取り組みを行ってきており、これまでの鎌ヶ谷市、柏市、松戸市で行われた千教研の研究大会において東葛飾管内の多くの先生方が、研究大会に参加し研修を深めてきた。今年度は、令和3年度の新学習指導要領の完全実施に向けて、これらを踏まえ、各市のとりくみを進めていくこととした。

東葛飾支部は、支部内6市の中学校72校、小学校145校で活動している。東葛飾地方技術教育センターと協力し、管内の中学校技術・家庭科及び小学校家庭科教育の推進及び教職員の資質向上を図っている。

	松戸市	柏市	野田市	流山市	我孫子市	鎌ヶ谷市
小学校数	45校	42校	20校	16校	13校	9校
中学校数	20校	21校	11校	9校	6校	5校

### 今年度の活動について

4/21 (火)	令和2年度第1回センター運営委員会 (中止)
6/17 (水)	小学校家庭科中央研修 (中止)
6/24 (水)	中学校伝達中央研修 (中止)
7/29 (水)	小学校地方伝達実技研修会打ち合わせ (中止)
7/30 (木)	小学校家庭科実技研修会 (地方伝達実技研修会) (中止)
8/6 (木)	中学校技術・家庭科実技研修会 (地方伝達実技研修会) (中止)
1/16 (土) 1/17 (日)	第23回東葛飾地方家庭科、技術家庭科作品展 (中止、可能な範囲内で各小中学校で開催)
2/22 (月)	令和2年度第2回センター運営委員会

昨年度末より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、センターの運営委員会・研修会が中止となった。

### 3. 研究概要について

各市のとりくみは以下の通りである。

#### 松戸市

「確かな知識と技術を身につけ、社会の変化に対応し、生活に活かす力を育む学習指導のあり方」

コロナ禍における実習の方法，工夫についての情報交換

講師を招聘しての新学習指導要領の解説，小中学校の関連等について

#### 我孫子市

「一人一人を生かし、生きる力を育てる学習指導はいかにしたらよいか」

実技研修 スライド式本立ての製作を通して生徒への効果的な学習指導を学ぶ

#### 流山市

「生活や技術を工夫し、持続可能な社会を創造する実践的な態度の育成」

研究主題を達成するための「題材」「指導計画」「評価」の研究

関ブロに向けて市内で共通の題材で授業を行った学校の「指導法」「授業時数」「生徒の変容」等をまとめ、情報を共有する。

### 4. 成果・課題

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年のような研究研修を進めることができなかつたのが現状である。しかしながら、各市の研究会ごとに工夫を凝らし、研修を進めることができた。来年度はいよいよ新学習指導要領の完全実施となる。題材や指導法の工夫等の研修を行うことで、教員の資質向上目指していきたい。また、支部内では研究大会を2年に一度の間隔で管内6市持ち回りで研究大会を開催していたが、昨年度を持って終了した。今後の情報交換の方法を含めて検討していく必要がある。

### 5. その他

今年度は、休校期間があり、家庭でのオンラインによる学習支援のとりくみが見られた。また、文部科学省のG I G A (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想の実現にむけての一環で、各校でこれまで以上にI C T環境の整備が進められている。これまでには主に技術分野の学習でコンピュータが使われていたものが、各教科・領域における探究的な学習の一連の学習活動(課題の設定、情報の収集、整理等)に使われるようになってきた。このG I G Aスクール構想では、地域間での整備状況の格差が大きいなどの学校のI C T環境を1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することが目的とされている。今後はこれまで以上に各教科・領域との連携を深め、学習活動を進め、さらに、技術分野における、「情報の技術」における活用方法も研究していく必要がある。

## (9) 印旛支部

(学校数 小学校108 中学校49 会員数 小家庭34 技術科34 家庭科36)

### 1 印旛支部研究主題

確かな知識と技能を身に付け、社会の変化に対応し、  
生活や技術を工夫し、創造する力を育む学習指導のあり方

### 2 主題設定の理由

現代の子どもたちを取りまく生活環境は科学技術の進歩とともに大変便利なものになってきている。しかしながら、子どもたちはものをつくり、活用する生活体験が少なくなり、生活に係る知識及び技能などが徐々にではあるが劣ってきている。

新学習指導要領において、小学校では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを重視している。また中学校では、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを重視している。

それらを踏まえ、授業を通して子どもたちに身近な生活や技術に目を向けさせ、興味・関心を高めることにより、自ら学ぶ意欲が喚起され、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだすことができる。そして、「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせ、問題解決的な学習を充実させることにより、生活や技術に係る基礎的な知識と技能の習得が図られ、自分の適性にあった創意工夫が生まれるものと考えられる。そのことにより児童・生徒一人一人における家庭生活や社会生活が充実し、生活を工夫し創造する資質・能力の育成を図ることができるであろうと考え、本主題を設定した。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究計画

①定期総会 → 紙面議決 昨年度の報告、今年度の研究内容、行事予定等を確認

②中学校技術・家庭科実技研修会 → 中止

③小学校家庭科実技研修会 → 中止

④県作品展 10月1日(木)

印旛地区内14作品を出展。技術分野・家庭分野それぞれ1作品ずつが振興会長賞を受賞

⑤第60回印旛地区小学校家庭科、中学校技術・家庭科作品展 → 中止

代替として、各小中学校の優秀作品を「優秀賞」として賞状を授与

#### (2) 研究について

感染症拡大防止の観点から、印旛地区及び各部会の研修会等、予定されていた行事が全て中止となった。そのため、各校自主研修形式で、学習指導要領の基本理念に則した指導計画、評価計画、題材・教材開発を進めた。

### 4 成果と課題

各小中学校における家庭科、技術・家庭科の授業で製作された児童・生徒の作品に対して賞を授与することにより、長年続けてきている、作品展を通じた指導法研修を継続することができた。今後、より詳細な作品の審査基準を検討することで、各校の授業実践をより向上させることに繋げていきたい。

## (10) 香取支部 (学校数 中学校 10校 技術科 9名 家庭科 3名 小学校 22校)

### 1 香取支部研究主題

自ら課題をもち、実践活動を通して解決する力を育む学習過程の研究

- (1) 中学校 学習指導要領の研究, 教材研究, 研究実践の積み上げ
- (2) 小学校 学習指導要領の研究, 研究実践の積み上げ

### 2 主題設定の理由

技術・家庭科の目標は「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術のかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」である。

香取支部の生徒や地域の実態として、次の点が挙げられる。

- ① 農村地域でありながら、生活体験の不足、ものづくり体験が不足している。
- ② 祖父母の農業従事者は多い。父母世代は、地元及び近隣の鹿嶋・成田方面へ勤務している者が多い。

また、香取支部は平成22年度県研究大会を開催し、そのときの研究主題「確かな知識と技術を身に付け、自ら課題を解決していく力を育む学習指導のあり方」を継続する形で、本主題「自ら課題をもち、実践活動を通して解決する力を育む学習過程の研究」を設定した。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の仮説

学習活動の中に意図的に問題解決的な学習を取り入れ、繰り返し行っていくことで、児童生徒の「問題発見能力」「問題解決能力」が高まるであろう。

#### (2) 研究方法 (感染症拡大のため実践できるものだけを取り上げた。)

- ① 各学校で日常の授業の充実に努める。
- ② 作品展の際、作品を通して授業実践の情報交換を行う。

#### (3) 研究実践 (実技研修会ができず、作品審査のみ行った。)

- ① 作品展では、優秀作品を選考するとともに、工夫した作品・新しい題材等を検討する機会となった。

### 4 成果と課題

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実技研修会ができなかった。
- ② 作品展として展示はせず、中学校の優秀作品を選考した。審査を行えば、やはりよい研修機会となった。
- ③ 香取支部では、児童生徒の減少に伴い、小・中学校の統合が進められている。数年後には中学校8校、小学校20校ほどになる。このため、香取支部として、研究・研修内容、作品展等の行事での運営面の改善を迫られている。

#### ※ 香取支部としての本年度の行事

1月27日 役員研修会 (作品審査・来年度の活動を検討)

## (11) 東総支部 (学校数 15校 会員数 技術科 13名 家庭科 11名)

### 1. 東総支部研究主題

#### 【技術分野】

地域の実態を踏まえた指導法のあり方

～東総地区技術・家庭科指導マニュアルの作成を目指して～

#### 【家庭分野】

環境に配慮した生活を主体的に営もうとする児童・生徒の育成

～エコクッキングの視点を取り入れた学習活動を通して～

### 2. 主題設定の理由

技術分野と家庭分野ともに昨年度と同様。

### 3. 研究の概要

#### (1) 東総支会による教研活動 ※感染症予防のためすべて中止

- ①第1回 ~~5月11日~~ (中止)
- ②第2回 ~~6月4日~~ (中止)
- ③第3回 ~~8月18日~~ (中止)
- ④第4回 ~~9月14日~~ (中止)
- ⑤第5回 ~~1月25日~~ (中止)

#### (2) 令和3年度千教研技術・家庭科東総大会に向けた実行委員会

- ①第1回 4月22日 研究組織・役割分担の確認
- ②第2回 5月26日 研究計画の立案
- ③第3回 7月10日 研究内容の検討
- ④第4回 8月18日 アンケート案の作成
- ⑤第5回 10月9日 アンケート集計
- ⑥第6回 11月13日 指導案検討
- ⑦第7回 12月18日 検証授業展開
- ⑧第8回 1月20日 (予定)
- ⑨第9回 3月12日 (予定)

### 4. 成果と課題

#### (1) 成果

令和3年度の技術・家庭科東総大会に向けては、限られた会員数で計画的かつ組織的に研究を進めることができた。特に、支部共通アンケートの実施や授業の実践発表に向けた準備については積極的な協力体制ができている。

#### (2) 課題

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、授業形態の変更を迫られ、本来の研究目標を十分に達成できない状況である。人的交流についての制約が多い中での、主体的・対話的な授業を組み立てていく難しさについて支部としても解決策が見出せない。

## (12) 山武支部

(学校数 59 会員数 技術科 13名 家庭科 12名)

### 1. 山武支部教育研究主題

人との関わりをとおした学びから、豊かな生活を創造する態度を  
育成する技術・家庭科教育の在り方

### 2. 主題設定の理由

令和2年度(中学校は令和3年度)から改訂される次期学習指導要領を見据え、家庭科、技術・家庭科においては、実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度の育成を目指す必要がある。

「技術分野」では持続可能な社会の構築やものづくりを支える能力の育成、また技術を適切に評価し活用できる能力の重視など、社会の変化に対応する視点からの改善が必要である。一方、「家庭分野」では、少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないことへの対応や食育の推進など、社会の変化に対応した学習を行わなければならない。

しかし、現状を見てみると、「授業で学習したことを生活や社会の中で、確実に活かしているか定かではない」ようである。授業で学んだことを活かすため、思考力・判断力・表現力を育むような授業のあり方について研究を進めていく必要がある。言語活動を重視し、生徒同士の主体的な学び、対話的な学びが実施されるよう工夫する必要がある。また、確かな「教え」を通して、基礎的・基本的な知識と適切な技能の定着を図るとともに、課題を見だし解決を図る問題解決的な学習のあり方について研究を進めていくことが重要であると考え、本研究テーマを設定した。

### 3. 研究の概要

#### (1) 研究内容

- ・学習指導要領に即した指導内容と言語能力の育成を取り入れた授業研究を進める。
- ・学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、題材の開発や授業の工夫改善、評価方法と評価の判断基準の見直しをする。

#### (2) 運営方針

- ・研究活動及びその他の部会事業を通して、会員の力量の向上を図る。
- ・年間の諸活動における会員の要望を集約し、次年度の運営方針案に反映させる。

#### (3) 年間計画

- ・ 5月 9日(木) 山武教育研究総会(横芝中学校)
- ・ 6月 4日(木) 第1回同一研修会(各会場)
- ・ 7月 29日(水) 実技伝達講習会(東金中学校)
- ・ 8月 19日(水) 教育研究集会(各会場)
- ・ 11月 12日(木) 第2回同一研修会(各会場)
- ・ 1月 15日(金) 小中学校技術・家庭科主任会(横芝中学校)
- ・ 2月 5~7日(金~日) 山武郡市小中学校技術・家庭科作品展(東金サンピア)

#### (4) 実践の概要

##### ①小学校部会

ア 第1回同一研修会 感染症拡大防止のため、中止

イ 実技研修会 感染症拡大防止のため、中止

- ウ 教研集会 感染症拡大防止のため、中止
  
- エ 第2回同一研修会 感染症拡大防止のため、中止
  
- ②中学校技術・家庭科部会（技術分野）
- ア 第1回同一研修会 感染症拡大防止のため、中止
  
- イ 実技伝達講習会 感染症拡大防止のため、中止
  
- ウ 教研集会 感染症拡大防止のため、中止
  
- エ 第2回同一研修会 感染症拡大防止のため、中止
  
- ③中学校技術・家庭科部会（家庭分野）
- ア 第1回同一研修会 感染症拡大防止のため、中止
- 第2回同一研修会 感染症拡大防止のため、中止
- イ 実技研修会 感染症拡大防止のため、中止

#### 4. 成果と課題

##### (1) 研究の成果

今年度は、新型コロナウイルス感染症等の感染症拡大防止のため、実施できた行事が少なかった。感染症対策をしながら、できる行事を行っていきたいと考えている。

##### (2) 今後の課題

本教科の特性を生かし、思考力・判断力・表現力等の能力を高める授業や研修の工夫をさらに進めていかなければならない。また、本支部においては、経験の少ない教諭が増えていることから、指導するための知識や手法、技能の共有や評価方法などを協議する場を増やす必要がある。

## (13) 長生支部

(学校数 中10校 小13校 会員数38名 中技術12名 中家庭7名 小家庭 19名)

### 1. 長生支部研究主題

生活に役立つ知識と技術を身に付け、社会の変化に対応する力を育む学習指導のあり方

### 2. 主題設定の理由

技術・家庭科の学習では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成すること」を目指している。そこで本支部では、未来の社会を牽引する子どもたちが、技術・家庭科の学習により、よりよい生活や持続可能な社会の構築の礎となる資質・能力を育成するという最終的な目標に着眼し、技術・家庭科の「見方・考え方」を十分に働かせて学習をすることで、社会の変化に対応する資質・能力を身に付け、よりよい最適解を見出す生きる力を育てたいと考え、本主題を設定した。

### 3. 研究の概要

#### (1) 研究計画（事業計画）

期 日	事 業 名	内 容
<del>4月22日(水)</del>	技術・家庭科研修会	活動計画立案 書面表決
<del>5月1日(金)</del>	長生教育研究集会	事業報告、活動計画 中止
<del>6月24日(水)</del>	技術・家庭科教材開発研修会	教育研究集会の提案内容の検討 中止
<del>7月31日(金)</del>	小学校家庭科研修会	実技研修 中止
<del>8月4日(火)</del>	中学校技術・家庭科研修会	実技研修 中止
8月5日(水)	技術・家庭科教材開発研修会 役員研修会	教育研究集会の提案内容の検討 変更 今後の研究活動方針
<del>8月24日(月)</del>	長生教育研修集会	研究レポートの発表 中止
11月27日(金)	技術・家庭科研修会 役員研修会	作品展計画立案 変更 今後の研究活動方針
<del>1月29日(金)</del>	技術・家庭科作品展作品搬入	作品展会場づくり、作品の搬入 中止
<del>2月12日(金)</del>	技術・家庭科作品展作品搬出	作品の搬出、会場復旧 中止
2月24日(水)	技術・家庭科研修会	今年度の反省と次年度の計画

#### (2) 研究内容

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修を中止とした。  
役員研修会を実施し、今後の支部研究の方向性を確認した。

### 4. 成果と課題

次年度の諸般の状況を確認し、研究を進めていく。

## (14) 夷隅支部 (学校数 6校 会員数 11 技術科 6名 家庭科 5名)

### 1 夷隅支部研究主題

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活を工夫し創造する学習指導のあり方

### 2 主題設定の理由

技術分野では、学習指導要領の改訂により、「情報活用能力」を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、教科横断的に育成する旨を明記するとともに、小・中・高等学校を通じてプログラミング教育の充実が求められている。夷隅支部では、学校数が少ないことから、他校の指導実践について知り、研修を深めることは大変重要である。しかし、今年度はコロナ禍にあり研修の機会もないため、その中で先進的な実践例を取り上げ、どのような授業をすすめているのか紹介する場としたい。今後、さらに地区での研修を深め、子どもたちが、情報の技術の見方・考え方を働かせ、問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付けさせるためにはどのような学習指導のあり方がよいか研究を推進したい。

家庭分野では、自らの生活の営みを見つめることで課題を見出し、自分に合った方法を工夫し実践することが生きる力につながると考え、課題を見出し手だてを考え実践、そして振り返りの中で次の課題を見出すという一連の学習を意識的に取り入れることで、生徒自身が生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活を工夫することにつながると考えた。

以上のことから、夷隅支部では、技術分野と家庭分野の両方に共通する研究主題を「生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活を工夫し創造する学習指導のあり方」と設定し、研究を推進することとした。

### 3 研究の概要

(1) 技術分野では、プログラミング学習についての実践例を紹介する。

<実践例 1> いすみ市のよいところを紹介するロボットを作ろう

～Sota とはじめるブロックプログラミング～

教育ソフト開発会社「ゼッターリンクス」とNTT東日本が展開するクラウド型対話ロボットサービス「ロボコネク」を使い、駅や観光地で案内業務をするコミュニケーションロボット「Sota」のプログラムをつくり、動かすことができた。

フローチャートで、基本の流れから応用、発展まで考えながら、スクラッチでプログラムを作成し、実際に、「Sota」に話しかけ、動きと返答を見ながら少しずつプログラムを工夫した。



(2) 今年度は休校の状態でも新年度を迎え、感染症への対策が求められる状況であった。家庭分野として生徒自身に自分の手でできる工夫を経験させたいと考え、マス

ク作りを休校期間の課題として全校生徒に取り組みさせた。当時はマスクの材料も手に入りにくい状態であったため、ガーゼとゴムを配布したうえで、基本的な作り方を示し、結果をレポートにまとめさせた。

さらに1年生では「衣生活・住生活の自立」の学習の中で、「生活の課題と実践」に取り組み「課題解決レポート」にまとめさせることで自分の手で自分の生活を創る経験を重ね、2年生では「食生活と自立」の学習を踏まえ、家庭での食事作りに携わることを経験させた。



マスク作りのレポ

1年生「課題解決レポート」(実践の記録部)

#### 4 成果と課題

##### <技術分野>

##### (1) 成果

- ・様々な動きや音声による返答ができるロボットによって、生徒の関心・意欲の向上につながり、プログラミング的思考を深めることができた。
- ・今後の地域の人材活用や企業との連携における今後につながる関係づくりができた。
- ・どの学校も同じようにできるわけではないが、こんなこともできるという可能性を示すことができた。

##### (2) 課題

- ・教材を貸し出していただいたので、実現できたが、他校で同じようにできるわけではない。自校での教材を最大限活用した授業の工夫が大切である。
- ・このような関係をいかに広げ、活用していくための工夫が必要である。

##### <家庭分野>

##### (1) 成果

- ・マスク作りではマスクの不足を自分の手で解決し、また、家族の分も作った生徒も多く見られるなど、自分にできることで生活を創るという経験ができた。
- ・家族から「一緒に作り子どもの成長に気づいた」「買えないと嘆いていないで自分で解決するという良い経験になった」などのコメントをいただき、生徒にとっても有用感を感じる機会となった。
- ・「生活の課題と実践」ではマスク作りの経験を踏まえ、「不要な衣類の活用」「室内の安全」「非常持ち出し品の準備・見直し」など様々な課題の発見や実践に取り組むことができた。

##### (2) 課題

- ・自分の生活の中から課題を見つけ取り組ませる経験を重ねることで、自分の生活をより良いものにしようという意識を持たせることができると考えるが、その継続性が今後の課題である。

## (15) 安房支部 (学校数 14校 会員数 16名 技術科 9名 家庭科 7名)

### 1. 安房支部研究主題

－ 学びを生かし，生活を創造する力を育てる指導のあり方 －

### 2. 主題設定の理由

技術・家庭分野ともに，溢れるほどのものがある時代に，如何にして生活に目を向けさせ，学びを生かしてより良い生活を築くために創造する力を育てるかをテーマに研究を進めた。

この主題を達成するためには，児童・生徒が自ら工夫創造しながら意欲的に取り組める学習活動となるように授業改善することが必要である。安房支部では，本教科の特性を生かし，実践的・体験的活動を通して，自ら課題を解決していく力を育てることを目指し，本主題を設定した。

### 3. 研究の概要

#### (1) 活動の概要

今年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，全員が集まった研修が中止になった。そのため，技術・家庭分野ともに，限られた授業数の中で学習内容を指導できるように，個々で教材研究を行った。加え，来年度より実施される新学習指導要領の内容を研修し，年間指導計画や教材等の準備を行った。今後，研修会が開催された際には，それらの実践を報告できるようにし，来年度の授業に活かせるような研修会を開催したい。

#### (2) 令和4年度関東甲信越ブロック技術・家庭科研究大会に向けて

安房地区は，令和4年度関東甲信越ブロック技術・家庭科研究大会のCエネルギー変換の技術の提案をする予定である。そこで，技術分野担当が集まり，研修会を開催した。

#### <題材内容>

- 電気分野・運動（動力）分野のどちらをメインにするか。  
製作活動をメインにした授業を行う。
- 理論（知識）の部分の内容を充実して，まとめの内容をメインにする。  
実習は，理論の部分を利用した製作題材にする。
- クロスロード（防災カードゲーム）のような教材を作成し，生活での利用方法の視点を育てる。
- 災害から防災につなげ，エネルギー変換の利用が工夫されていることに気づける授業。例 停電→発電ラジオ ・ 停電 → 発電所や送電線の分散の工夫 など
- テーマ（視点）を生活や社会に即した内容にする。（エネルギー変換で，生徒に何を考えさせるか。）
- エネルギー変換の専門家の視点を取り入れる。
- ロボコンの実践 → 改良や工夫を実践できるため，問題解決の授業ができる。

<理論について>

- 県の研究主題を受けて、安房での研究主題をどうするか。  
また、主題設定の理由や研究内容が新学習指導要領に合っているか検討が必要。
- 年間指導計画、評価規準等が新学習指導要領に合っているか。

(3) 主な活動

期日	会場	活動内容
4 / 2 3 (木)	館山第三中学校	一斉研修日① (中止) 「総会と役員選出, 行事計画の検討」
6 / 1 8 (木)	総合教育センター	小学校家庭科研修 (中央伝達) (中止)
6 / 2 5 (木)	総合教育センター	中学校技術・家庭科研修 (中央伝達) (中止)
7 / 3 1 (金)	館山第三中学校	小学校家庭科実技研修会 (中止) 「伝達講習」
8 / 3 (月)	館山第三中学校	一斉研修日② (中止) 「新学習指導要領について」 「教研集会へ向けてのレポート作成」
8 / 4 (火) 5 (水)	館山第三中学校	実技研修会「伝達講習」 (中止)
8 / 1 9 (水)	館山市内	安房地方教育研究集会 (中止)
1 1 / 4 (水)	館山第三中学校	一斉研修日③ (中止) 「作品展打ち合わせ, 県教研報告」
1 1 / 6 (金)	富浦中学校	関ブロに向けての研修会 (技術分野担当)
1 1 / 1 4 (土)	総合教育センター	ものづくり教育フェア (中止)
1 / 2 2 (金)	安房教育会館	研修会 作品展審査会
1 / 2 3 (土) 2 4 (日)	安房教育会館	小学校家庭科, 中学校技術・家庭科作品展 (中止)
2 / 9 (火)	館山第三中学校	一斉研修日④ (中止) 「本年度の反省と来年度の方向性」

4. 成果と課題

技術分野では、休校等で少ない授業時数の中でも生活体験の乏しい生徒の実態を考慮した指導法の工夫として、昨年度から継続的に取り組んできた設計段階での指導法の改善は、自ら課題を設定し解決しようとする態度を育むことができ、よりよい生活を目指す態度の育成に繋がるものとなった。家庭分野では、中学校での正規教員が3名と少ない中であるが、会員在籍校すべてが同テーマで授業実践と検討・改善を行った。日常生活に根ざした指導は、生徒の実態に即した学習支援の充実を図ることに繋がるものとなった。

次年度は、新学習指導要領実施のため、指導内容やカリキュラム等を考慮した、年間指導計画を作成し実施、改善していく必要がある。加え、技術分野では関ブロ栃木大会に向けて、Cエネルギー変換の技術の内容で共通の授業実践を通し、生徒に対して「何を学ばせたいのか」、「どのように学ばせるのか」等を重視した指導計画・指導方法を提案できるようにしていきたい。

## (16) 君津支部

(学校数 76 校 会員数：中技術科 16 名 中家庭科 18 名 小家庭科 5 名)

### 1. 君津支部研究主題

小学校家庭科 「生きる力を育む家庭科教育のあり方」  
～生活の自立と共生の基礎づくりをめざして～  
中学校技術・家庭科  
「確かな知識と技術を身に付け、社会の変化に対応し  
生活に活かす力を育む学習指導のあり方」

### 2. 主題設定の理由

#### (1) 小学校家庭科

「単なるものづくり」や「調べ学習」ではなく、生活を見つめ、解決方法を考え、実践する。このような授業展開を積み重ねることで、児童の生活重視の価値観を育てたいという願いを込めて本主題を設定した。

#### (2) 中学校技術・家庭科

生徒が問題解決能力などの「生きる力」を身につける必要があると考えた。そこで、実践を通して技術に関する関心を高め、思考力や判断力、表現力などを身につけ、生徒自身が自ら課題や問題を見つけ生活を工夫し改善するなどの能力を育成することで主題に迫ることとした。

### 3. 研修の概要

#### (1) 小学校家庭科

昨年度は、新学習指導要領で取り入れられる「根菜類」を扱い、調理の基礎基本を身に付ける研修や「衣に関する研修」では、新指導要領の「袋物」を意識した実習を行った。今年度も新学習指導要領を意識した研修を計画する方向であったが、コロナ禍のため実施することができなかった。

#### (2) 中学校家庭分野

昨年度は、新学習指導要領の内容として、少子高齢社会の進展への対応という目的があるため、高齢者体験など、今までになかった観点を扱った。難しい題材であったが今後も継続して研修で取り上げていきたい内容である。

#### (3) 中学校技術科分野

昨年度は、授業改善についてのグループディスカッションを行い、環境整備についてポイントを置いて意見を交換し、技術に興味・関心を持ちやすい環境についての理解を深めた。意見を交換する中で新たな発見も多くあり、有意義な研修だったため、継続していきたいと考えている。若い先生や免許外の先生など、経験値の少ない先生方の研修の場としての意味を忘れずに、機械工具の安全かつ正しい使用方法や、プログラミングに関する学習内容を扱う授業の進め方などを確認する研修も引き続き行っていきたい。

## 4. 成果と課題

### (1) 研修の成果

- ① 小学校家庭科 :
  - ② 中学校家庭分野 :
  - ③ 中学校技術分野 :
- } コロナ禍のため、研修未実施。

研修は行われなかったが、どの分野でも今後の研修のあり方について考える良い機会となった。新指導要領の本格実施を見据えて研修内容を考察する必要性や同じ教科を担当する各学校の先生方との交流・意見交換の場面の大切さについても改めて感じることができた。子どもたちをより深い学びへ導くために、自分たちに何ができるのかをそれぞれの担当教員が考えることができた。

### (2) 今後の課題

- ① 小学校家庭科：小学校においては新学習指導要領実施を受けて、新しい教科書にしっかりと目を通し、今までと同じような指導のままにいいのか、そして、変えていくべき学習内容はどこなのか、色々な先生方の意見をぶつけ合う場が必要なのではないかと考えられる。
- ② 中学校家庭分野：昨年度と同様に、免許を持った教員がいない学校でも、家庭科の免許を持った教員と同じ指導ができるような手立てや資料作りをしていかななくてはいけない。実技伝達講習でも、免許外の教員や臨免の教員でも参加しやすい研修内容に変える必要がある。
- ③ 中学校技術分野：「主体的・対話的で深い学び」を授業の中でどのように取り入れていくかが大きな課題である。より効率的に授業を展開し、「主体的・対話的」に学ぶことのできる授業の工夫を考えることが大切である。また、双方向性プログラムについては、今後も研修が必要である。

# 令和2年度 千教研 技術・家庭科教育部会 役員名簿

No.	役職	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	備考
1	会長	若林 雅夫	袖ヶ浦市立平川中	若林 雅夫	299-0236	袖ヶ浦市横田500	0438-75-2141	君津
2	副会長	井川 富美子	船橋市立丸山小	井川富美子	273-0048	船橋市丸山4-43-1	047-439-2123	船橋
3	副会長	近藤 昌彦	佐倉市立王子台小	近藤 昌彦	285-0837	佐倉市王子台5-19	043-487-1376	印旛
4	副会長	市原 喜郎	東金市立日吉台小	市原 喜郎	283-0803	東金市日吉台2-32-1	0475-55-5868	山武
5	副会長	伊藤 嘉章	柏市立富勢西小	伊藤 嘉章	277-0825	柏市布施84-2	04-7132-2244	東葛
6	副会長	大原 晴子	松戸市立上本郷小	大原 晴子	271-0064	松戸市上本郷3620	047-363-9278	東葛
7	副会長	迎 寿美	千葉市立葛城中	鎌野 繁	260-0853	千葉市中央区葛城2-9-1	043-227-5566	千葉
8	会計監査	角田 直彦	匝瑳市立須賀小	角田 直彦	289-2132	匝瑳市高1956	0479-72-0476	東総
9	会計監査	下須賀 和実	船橋市立豊富中	川崎 博樹	274-0053	船橋市立豊富町12	047-457-2030	船橋
10	顧問	山田 克彦	千葉市立こてはし台中	山田 克彦	262-0005	千葉市花見川区こてはし台5-15-1	043-259-1336	千葉
11	研究部長	三宅 健次	千葉大学教育学部附属中	藤川 大祐	263-8522	千葉市稲毛区弥生町1-33	043-290-2493	千葉
12	研究副部長	田村 真理	千葉市立若松台小	田村 真理	264-0027	千葉市若葉区若松台2-25-1	043-232-7335	千葉
13	研究副部長	渡邊 宏幸	君津市立久留里小	森 義夫	292-0422	君津市久留里474	0439-27-2361	君津
14	研究副部長	佐藤 理恵子	白井市立南山中	小野 義勝	270-1423	白井市南山1-6-1	047-492-1441	印旛
15	研究部員	内藤 利枝子	千葉市立末広中	村松 幸郎	260-0843	千葉市中央区末広2-10-1	043-265-1818	千葉
16	研究部員	白井 隆太	館山市立館山三中	吉田慎一郎	294-0045	館山市北条1452	0470-23-7321	安房
17	中学校部長	伊藤 肇	富里市立富里中	東城 孝	286-0221	富里市七栄652-226	0476-93-0012	印旛
18	中学校副部長	北島 啓行	千葉市立貝塚中	北島 啓行	264-0020	千葉市若葉区貝塚1-7-1	043-231-7077	千葉
19	中学校副部長	宮内 雅史	市原市立千種中	山崎 剛	299-0109	市原市千種6-1-1	0436-21-2918	市原
20	中学校副部長	後藤 恒治	白子町立白子中	中田 宏	299-4215	長生郡白子町中里860	0475-33-2152	長生
21	中学校副部長	田邊 暁子	東金市立東金中	今井 清仁	283-0063	東金市堀上111	0475-52-4195	山武
22	中学校副部長	藤本 朱子	千葉市立稲浜中	川崎 康範	261-0005	千葉市美浜区稲毛海岸2-3-3	043-247-8499	千葉
23	中学校部員	高島 亮策	成田市立久住中	小山 典之	286-0819	成田市久住中央2-1	0476-36-0602	印旛
24	中学校部員	平 大樹	流山市立西初石中	浦沢 雄一	270-0121	流山市西初石4-455-1	04-7154-3091	東葛
25	中学校部員	岡本 誠士	君津市立周西中	諏訪壽一郎	299-1142	君津市坂田560	0439-52-1517	君津
26	中学校部員	小嶋 健一	松戸市立小金中	中道 俊一	270-0032	松戸市新松戸北2-16-11	047-341-0646	東葛
27	中学校部員	横山 由佳子	千葉市立泉谷中	大西 徹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	千葉
28	中学校部員	船迫 千春	松戸市立松戸一中	久保木晃一	271-0076	松戸市岩瀬587	047-363-4171	東葛
29	中学校部員	白土 幸子	船橋市立習志野台中	山岸 秀規	274-0063	船橋市習志野台6-23-1	047-466-1310	船橋
30	小学校部長	大原 晴子	松戸市立上本郷小	大原 晴子	271-0064	松戸市上本郷3620	047-363-9278	東葛
31	小学校副部長	前田 真帆	千葉市立生浜西小	前田 真帆	260-0823	千葉市中央区塩田町316-1	043-264-0013	千葉
32	小学校副部長	児玉 喜久子	佐倉市立千代田小	大三川 弘	285-0834	佐倉市吉見553	043-487-3140	印旛
33	小学校副部長	鳥羽 波峰	千葉市立園生小	加藤 雅浩	263-0043	千葉市稲毛区小仲台9-30-1	043-251-8140	千葉
34	小学校副部長	福島 理恵	柏市立松葉第二小	原 寛	277-0827	柏市松葉町2-16	04-7133-7500	東葛
35	調査編集部長	江原 雅之	佐倉市立白井中	相蘇 重晴	285-0863	佐倉市白井1530	043-489-5635	印旛
36	調査編集副部長	押元 和	南房総市立嶺南中	三平 智子	299-2526	南房総市沓見2075	0470-46-2142	安房
37	調査編集部員	長野 翔伍	船橋市立二宮中	安永 賢	274-0074	船橋市滝台1-2-1	047-466-2453	船橋
38	広報部長	伊藤 芳仁	千葉市立千草台中	伊藤 芳仁	263-0013	千葉市稲毛区千草台2-3-1	043-251-6129	千葉
39	広報副部長	宮原 尚	千葉市立高洲小	宮原 尚	261-0004	千葉市美浜区高洲2-2-20	043-243-0169	千葉
40	広報部員	大野 忠	千葉市立松ヶ丘中	内山 俊雄	260-0807	千葉市中央区松ヶ丘町440	043-261-5261	千葉
41	情報部長	野村 英二	佐倉市立佐倉東中	野村 英二	285-0046	佐倉市高岡423-1	043-486-3031	印旛
42	情報副部長	佐野 貴紀	木更津市立清川中	中務 公明	292-0035	木更津市中尾1096	0438-98-0188	君津
43	情報部員	藤田 伸平	東庄町立東庄中	石橋 宏克	289-0615	香取郡東庄町青馬1756	0478-86-3131	香取
44	情報部員	依田 実	船橋市立御滝中	河上 俊和	273-0853	船橋市金杉6-5-1	047-448-3102	船橋
45	情報部員	菅 整	千葉市立大椎中	神戸 重彦	267-0066	千葉市緑区あすみが丘8-26	043-295-7201	千葉
46	情報部員	君塚 久美	千葉市立美浜打瀬小	今関 正次	261-0013	千葉市美浜区打瀬2-18-1	043-213-2751	千葉
47	事務局長	榊原 英記	千葉市立白井中	岸 美伸	265-0053	千葉市若葉区野呂町623	043-228-0201	千葉
48	事務局次長	海老原 恭子	富里市立富里南中	長嶋 英治	286-0212	富里市十倉127-38	0476-93-1171	印旛
49	事務局次長	鈴木 健一	千葉市立更科中	武満 直登	265-0073	千葉市若葉区更科町2112	043-239-0030	千葉
50	事務局次長	古屋 義和	市原市立八幡中	柴崎 雅之	290-0062	市原市八幡500	0436-41-0772	市原
51	事務局員	三瓶 繁義	富津市立天羽中	高梨 正己	299-1608	富津市岩坂109	0439-67-0615	君津
52	事務局員	藤田 展彰	富里市立富里中	東城 孝	286-0221	富里市七栄652-226	0476-93-0012	印旛
53	事務局員	飯塚 嶺	茂原市立東中	田中 弘樹	297-0017	茂原市東郷301	0475-24-2141	長生
54	事務局員	佐藤 翔	千葉市立作新小	高橋 毅	262-0045	千葉市花見川区作新台7-2-1	043-257-0927	千葉
55	事務局員	淡路 倫子	袖ヶ浦市立昭和の中	林 健司	299-0257	袖ヶ浦市神納3204	0438-62-2034	君津
56	事務局員	林 仁美	八街市立八街北中	川崎 秀雄	289-1107	八街市八街は18-2	043-442-8101	印旛

<支部理事>

No.	支部名	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	FAX
1	千葉	大西 徹	千葉市立泉谷中	大西 徹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	291-5247
2	市原	高田 浩光	市原市立南総中	滝口 隆一	290-0509	市原市安久谷140	0436-92-0044	92-4476
3	習志野	三橋 直行	習志野市立第三中	橋爪 弘一	275-0021	習志野市袖ヶ浦4-3-1	047-452-0330	452-0324
4	八千代	米石 達也	八千代市立睦中	米石 達也	276-0004	八千代市島田台756	047-450-2006	450-5459
5	船橋	下須賀 和実	船橋市立豊富中	川崎 博樹	274-0053	船橋市豊富町12	047-457-2030	457-2039
6	市川	松田 智	市川市立宮久保小	松田 智	272-0822	市川市宮久保5-7-1	047-371-2747	371-2748
7	浦安	小澤 力雄	浦安市立浦安中	小澤 力雄	279-0003	浦安市海楽2-36-1	047-351-2686	380-4300
8	東葛飾	鮎川 渉	松戸市立第五中	鮎川 渉	270-2222	松戸市高塚新田380	047-391-2110	391-8637
9	印旛	野村 英二	佐倉市立佐倉東中	野村 英二	285-0046	佐倉市高岡423-1	043-486-3031	486-2096
10	香取	山本 一利	香取市立大倉小	山本 一利	287-0013	香取市大倉501	0478-57-0007	50-5085
11	東総	角田 直彦	匝瑳市立須賀小	角田 直彦	289-2132	匝瑳市高1956	0479-72-0476	70-2043
12	山武	時津 丈二	山武市立松尾中	小野崎義一	289-1514	山武市松尾町松尾112	0479-86-4411	86-4228
13	長生	岡田 一人	白子町立白濁小	長島 正明	299-4213	長生郡白子町八斗470	0475-33-3164	33-7462
14	夷隅	芝崎 丈太	いすみ市立岬中	小高 太	299-4501	いすみ市岬町椎木1370	0470-87-2511	87-2587
15	安房	御子神 潤一	南房総市立富浦中	御子神潤一	299-2416	南房総市富浦町青木249-1	0470-33-2075	33-4729
16	君津	岸 教男	君津市立八重原中	岸 教男	299-1172	君津市三直1305	0439-52-4300	52-4301

<支部事務局長>

No.	支部名	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	FAX
1	千葉	大橋 宏嗣	千葉市立泉谷中	大西 徹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	291-5247
2	市原	古屋 義和	市原市立八幡中	柴崎 雅之	290-0062	市原市八幡500	0436-41-0772	42-2668
3	習志野	坂井 剛史	習志野市立第四中	小出 健司	275-0001	習志野市東習志野3-4-3	047-477-2727	477-2728
4	八千代	佐藤 和幸	八千代市立大和田中	設楽 憲一	276-0044	八千代市萱田町645	047-484-5071	484-6716
5	船橋	七戸 亮太	船橋市立八木が谷中	森畑 敏昭	274-0802	船橋市八木が谷2-9-1	047-447-1455	447-1456
6	市川	田代 邦子	市川市立国分小	田代 邦子	2720833	市川市東国分2-4-1	047-371-6793	371-6794
7	浦安	松田 謙	浦安市立美浜中	矢ヶ部潤之介	279-0011	浦安市美浜5-12-2	047-354-1199	380-4303
8	東葛飾	小嶋 健一	松戸市立小金中	中道 俊一	270-0032	松戸市新松戸北2-16-11	047-341-0646	345-0296
9	印旛	加藤 恒樹	印西市立印西中	鈴木 祥仁	270-1327	印西市大森2244	0476-42-3151	42-3649
10	香取	宮本 敏之	香取市立佐原中	大平 伸一	287-0001	香取市佐原口2124-1	0478-52-5157	52-5158
11	東総	大木 一真	匝瑳市立八日市場二中	椎名 和浩	289-2144	匝瑳市八日市場イ1687	0479-72-1375	72-1376
12	山武	吉田 樹央	東金市立西中	植草貴久男	283-0811	東金市台方1327-1	0475-55-5876	55-5877
13	長生	三ツ本 勝	長南町立長南中	保川 浩基	297-0121	長生郡長南町長南2060	0475-46-1190	46-1262
14	夷隅	芝崎 丈太	いすみ市立岬中	小高 太	299-4501	いすみ市岬町椎木1370	0470-87-2511	87-2587
15	安房	白井 隆太	館山市立第三中	吉田慎一郎	294-0045	館山市北条1452	0470-23-7321	23-7322
16	君津	松村 健二	木更津市立太田中	市原 浩	292-0043	木更津市太田1-2-1	0438-98-7001	98-7013

## 6 編集後記

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、長い休校期間や様々な対策等に追われ、これまでと違う学校生活であったと感じます。来年度から新学習指導要領が完全実施となることもあり、その準備として重要な1年間となるはずでしたが、各支部とも十分な研修が行えず苦労が多かったのではないかと推察しております。

千葉県教育研究会技術・家庭科部会としても、このコロナ禍において「研究のまとめ」が発行できたのは、原稿執筆に関わって下さった先生方のご尽力の賜物であると痛感しております。お忙しい中、また、大変な中でのご協力、本当にありがとうございました。

次年度は、各支部の活動や各研究大会、ものづくり教育フェア等が実施され、先生方のご協力のもと内容が充実していくことを願っております。今後ともよろしく願いいたします。

令和2年度「研究のまとめ」

発行日 令和3年2月12日

発行者 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

代表者 若林 雅夫

編集者 研究部

三宅 健次（千葉大学教育学部附属中学校） 田村 真理（千葉市立若松台小学校）  
渡邊 宏幸（君津市立久留里小学校） 佐藤理恵子（白井市立南山中学校）  
内藤利枝子（千葉市立末広中学校） 白井 隆太（館山市立第三中学校）

## 顧問

佐藤 紀夫	菊池 和子	毛利 洋一	関下 裕文	中山 米司	吉原 サト
大塚 文恵	田野 定男	田野キヨエ	福山 武夫	山本恵美子	蜂谷 昭夫
板倉 英雄	大嶋 六彦	内山 猛	上原 利雄	野呂 徳則	齊藤 俊夫
山中 家道	石橋富士夫	大野 伸子	関 弘子	佐藤 純次	畠山 和夫
矢崎 聖二	鈴木 定夫	裕本 清	石野 清恵	菅藤 孝	町田 達雄
鈴木 芳郎	山本 嘉則	加藤 勇	松岡 和美	庄司 佳子	田島 治子
青木 清一	品地 敏明	宮坂 敬章	天野新太郎	飯塚 清	戸井 康子
高山 玲子	相京 貢	浅岡 正人	小出 泰幸	萬崎 保子	